資料１

# 高知市男女共同参画推進プラン2021 令和7年度事業について

高知市男女共同参画推進プラン2021 令和7年度事業一覧

| 基本目標 | 取組の方向性 | 事業No. | 事業・取組 | 担当課 | 自課評価 | 事業費（千円） | 合計（千円） | 関連する数値目標 | 数値目標 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | （ア）多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | 1 | 男女共同参画の日「８月１日」事業 | 人権同和・男女共同参画課 | A | 34 | 5,825 | ③ | ① 市の審議会等で女性がいない審議会数 15会→0会<br>② 市職員の女性管理職（課長補佐以上）の割合<br>部長副部長 8.9% → 14%以上<br>課長 19.1% → 22%以上<br>課長補佐 46.8% → 45%以上<br>③ 男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）→ 増加（社会全体 25%以上ほか全8項目） |
| | | 2 | 広報・啓発と情報発信（市民等向け） | 人権同和・男女共同参画課 | A | 218 | | ③ | |
| | | 3 | 広報・啓発と情報発信（庁内向け） | 人権同和・男女共同参画課 | A | 0 | | ③ | |
| | | 4 | 多様な性のあり方を尊重する取組の推進 | 人権同和・男女共同参画課 | A | 0 | | ③ | |
| | | 5 | レインボースクール | 人権・こども支援課 | A | 345 | | ③ | |
| | | 6 | 学校における男女平等教育の推進 | 人権・こども支援課 | A | 0 | | ③ | |
| | | 7 | 健康教育（性に関する指導）の推進 | 学校教育課 | B | 0 | | ③ | |
| | | 8 | 市職員に対する研修 | 人事課 | A | 182 | | ③ | |
| | | 9 | ソーレにおける広報・啓発及び情報提供 | ソーレ | B | 4,985 | | ③ | |
| | | 10 | 男女共同参画事業（ＳＯＧＩに関する講座） | ソーレ | A | 61 | | ③ | |
| | （イ）政策、方針決定過程における男女平等の促進 | 11 | 審議会等の女性登用の推進 | 人権同和・男女共同参画課 | B | 0 | 217 | ① | |
| | | 12 | 各役職段階に占める女性職員の割合の向上 | 職員厚生課 | B | 0 | | ② | |
| | | 13 | 人材育成事業（女性の活躍応援） | ソーレ | A | 217 | | ③ | |
| | | 14 | 情報の収集及び提供、広報・啓発事業（政治分野への女性の参画） | ソーレ | A | － | | ③ | |
| 2 DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | （ア）ＤＶ・性犯罪等暴力を根絶するための啓発の充実 | 15 | 人権啓発の推進 | 人権同和・男女共同参画課 | A | 1,183 | 2,533 | ⑤ | ④ DVについて誰(どこ)にも相談しなかった人の割合 65.1% → 30%以下<br>⑤ DVを内容まで知っていると答えた人の割合 44.1% → 70%以上<br>⑥ セクシュアル・ハラスメントを内容まで知っていると答えた人の割合 43.0% → 70%以上 |
| | | 16 | ＤＶ防止啓発 | 人権同和・男女共同参画課 | A | 0 | | ⑤ | |
| | | 17 | ＤＶ・デートＤＶに関する啓発及び情報提供 | ソーレ | A | 420 | | ⑤ | |
| | | 18 | 児童虐待予防推進事業 | 子ども家庭支援センター | B | 859 | | ⑤ | |
| | | 19 | 情報モラル教育の推進 | 少年補導センター | A | 71 | | ⑤ | |
| | （イ）ＤＶ・性犯罪等暴力の被害者への支援 | 20 | 人権全般における相談体制の充実 | 人権同和・男女共同参画課 | A | 195 | 2,257 | ④ | |
| | | 21 | ＤＶ等被害者支援ネットワーク会議の連携強化 | 人権同和・男女共同参画課 | A | 0 | | ④ | |
| | | 22 | ＤＶ被害者の市営住宅入居 | 住宅政策課 | B | － | | ④ | |
| | | 23 | 相談事業 | ソーレ | A | 1,714 | | ④ | |
| | | 24 | 相談体制の充実 | ソーレ | B | 348 | | ④ | |
| | （ウ）あらゆるハラスメントを防止するための啓発の充実 | 25 | ハラスメント防止研修 | 人事課 | A | 0 | 241 | ⑥ | |
| | | 26 | 出前講座 | ソーレ | A | 85 | | ⑥ | |
| | | 27 | 性的少数者に関する電話相談 | ソーレ | B | 156 | | － | |
| 3 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | （ア）ワーク・ライフ・バランスの推進 | 28 | 男女共同参画推進企業表彰 | 人権同和・男女共同参画課 | A | 30 | 141 | ⑧ | ⑦ 待機児童数 11人 → 0人<br>⑧ 高知市男女共同参画推進企業表彰の表彰企業数 6社 → 毎年3社以上<br>⑨ 高知市男性職員の育児休業取得率（2週間以上） 9.9% → 85%以上<br>⑩ 高知市職員の技術職に占める女性の割合 9.4% → 15%以上<br>⑪ 社会資源「集いの場」状況 610 → 705以上 |
| | | 29 | 男性職員の子育て参加の促進 | 職員厚生課 | B | 0 | | ⑨ | |
| | | 30 | 「高知市労働ニュース」の充実・情報提供の拡充 | 産業政策課 | B | 6 | | － | |
| | | 31 | ワーク・ライフ・バランス事業（男性家事・介護基礎講座） | ソーレ | A | 105 | | － | |
| | （イ）育児・介護における多様なニーズに対応した支援の拡充 | 32 | 地域の子育て支援・子育て相談 | 子ども育成課 | A | 144,048 | 210,412 | ⑪ | |
| | | 33 | ファミリー・サポート・センター事業 | 子ども育成課 | A | 16,961 | | － | |
| | | 34 | 多様な保育サービスの充実 | 保育幼稚園課 | B | 46,852 | | ⑦ | |
| | | 35 | 生活支援サービスの充実 | 基幹型地域包括支援センター | B | 2,551 | | ⑪ | |
| | （ウ）女性活躍の推進 | 36 | 高知市職員の技術職に占める女性の割合の向上 | 職員厚生課 | B | 0 | 21,982 | ⑩ | |
| | | 37 | ひとり親家庭等の相談及び就業自立支援 | 子育て給付課 | B | 7,318 | | － | |
| | | 38 | 雇用促進・就労支援 | 産業政策課 | C | 13,837 | | － | |
| | | 39 | 女性消防吏員増加に向けた取組 | 消防局総務課 | B | 0 | | － | |
| | | 40 | 女性のための就業支援事業 | ソーレ | B | 827 | | － | |
| 4 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | （ア）地域活動における女性の参画の促進 | 41 | 地域コミュニティ再構築事業 | 地域コミュニティ推進課 | A | 11,171 | 11,582 | ⑫ | ⑫ 高知市における自治会長に占める女性の割合 15.4% → 25%以上<br>⑬ 防災士認定登録者に占める女性の割合 30.9% → 50%以上 |
| | | 42 | スポーツ指導者の育成 | スポーツ振興課 | D | 311 | | ⑫ | |
| | | 43 | 消防団の充実強化 | 消防局総務課 | C | 0 | | ⑫ | |
| | | 44 | エンパワメント支援 | ソーレ | A | 100 | | ⑫ | |
| | （イ）防災分野における女性の参画の促進 | 45 | 防災におけるジェンダー平等の啓発 | 人権同和・男女共同参画課 | C | 0 | 3,782 | ⑬ | |
| | | 46 | 避難所運営体制の整備 | 地域防災推進課 | A | 5 | | － | |
| | | 47 | れんけいこうち防災人づくり塾 | 防災政策課 | A | 2,019 | | ⑬ | |
| | | 48 | 人材育成事業（女性防災プロジェクト） | ソーレ | A | 1,758 | | ⑬ | |
| 5 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | （ア）あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | 49 | さまざまな世代やライフスタイルに応じた健康づくりのための講座等の開催 | 基幹型地域包括支援センター | C | 35,991 | 167,187 | ⑭ | ⑭ 健康寿命（65歳の平均自立期間）<br>男性 17.65年／女性 21.39年 → 男性 18.90年／女性 22.89年<br>⑮ 子宮頸がん検診受診率 14.2% → 20%以上<br>⑯ 乳がん検診受診率 17.3% → 22%以上<br>⑰ 低出生体重児出生率 11.1 → 9.5以下 |
| | | 50 | 生涯学習活動の促進 | 文化振興課 | B | － | | ⑭ | |
| | | 51 | スポーツ推進事業 | スポーツ振興課 | C | 1,573 | | ⑭ | |
| | | 52 | がん検診 | 健康増進課 | B | 93,763 | | ⑮⑯ | |
| | | 53 | 成人歯周病検診 | 健康増進課 | A | 7,816 | | ⑭ | |
| | | 54 | こころの相談窓口 | 健康増進課 | A | 281 | | ⑭ | |
| | | 55 | 思春期保健事業 | 母子保健課 | A | 0 | | － | |
| | | 56 | 妊娠・出産期等の支援 | 母子保健課 | B | 3,585 | | ⑰ | |
| | | 57 | 幼児健診 | 母子保健課 | B | 22,464 | | ⑰ | |
| | | 58 | 相談事業【No.23再掲】 | ソーレ | A | 1,714 | | ⑭ | |
| | | | | 計58事業 | 計22課 | | 計426,159千円 | | |

【事業の評価】
A‥100%以上（目標達成）
B‥80～100%未満（目標を概ね達成）
C‥60～80%未満（目標を少し下回った）
D‥60%未満（目標を大きく下回った）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | 1 | 男女共同参画の日「8月1日」事業 | ・8月1日「高知市男女共同参画の日」に関連した事業を実施した。<br>①啓発作品応募数　453点<br>（川柳：435点、写真：18点）<br>②男女共同参画推進表彰企業　5社<br>③パネル展開催（7月28日～8月22日、会場：市役所本庁舎）<br>④図書企画展開催（8月1日～8月31日、会場：オーテピア高知図書館 2階展示の本棚） | | R4 | A | ・男女共同参画やジェンダー平等への関心を高めることができるよう市民の目に触れるような機会を増やす情報発信を行う。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | 8月1日の「高知市男女共同参画の日」に関連した啓発事業を実施する。<br>・啓発作品募集<br>・パネル展示及び図書企画展<br>※　8月1日は昭和58年に本市に初めて婦人（女性）担当を配置した日。 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 事業の実施により、条例の理念及び8月1日の「高知市男女共同参画の日」の周知を図るとともに、男女共同参画やジェンダー平等の意識を浸透させる。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・男女共同参画推進に関する啓発作品応募数　300点以上を維持する。 | | | ・啓発作品応募数は453点と目標点数を超えており、啓発の機会を確保できている。<br><br>・図書企画展では107冊の図書を展示し、累計貸出冊数は95冊であった。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 45 | 48 | 45 | 48 | 34 |
| 担当課 | 人権同和・男女共同参画課 | | | | |

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | ア<br>多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | No. 2　事業名：広報・啓発と情報発信（市民等向け）<br>**◆事業（概要）**<br>市民や企業に向けて男女共同参画やジェンダー平等、多様な性に関する啓発、情報発信や学習機会の提供を行う。<br>〈市民向け啓発〉パネル展、出前講座等<br>〈企業向け啓発〉啓発紙の作成・配布、にじいろのまち宣言賛同企業の募集等<br>〈情報発信〉<br>市広報紙、SNS等による広報<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>様々なツールを用いて男女共同参画やジェンダー平等、多様な性に関する視点を社会に広げる。<br>**◆活動指標（目標）**<br>・ジェンダー平等、多様な性に関するパネル展、図書企画展を年4回以上開催する。<br>・要請に応じて出前講座講師を派遣する。<br>**（参考）関連する数値目標**<br>男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・パネル展4回（高知市男女共同参画の日、女性に対する暴力をなくす運動など）<br>・出前講座等8回（地域、学校、市職員など延べ319名参加）<br>・プライド月間キャンペーン2025（レインボーフラッグ掲揚、高知城レインボーライトアップ、帯屋町アーケードへのフラフ、フラッグの掲出、職員のピンバッジ着用）の実施<br>・レインボー高知との共同による、ここるんフェスタへのブース出展<br>・市広報「あかるいまち」のコラム「くらしの中のSDGs」に記事掲載（7月：部落差別の解消に向けて、12月：人権尊重のまちを共に築くために）<br>決算額（千円）<br>R3: 327　R4: 5　R5: 150　R6: 20　R7: 218<br>担当課：人権同和・男女共同参画課<br>写真等<br> | 自課評価<br>R3: A　R4: A　R5: A　R6: A　R7: A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>**◆検証《達成状況、その要因》**<br>・去年度から引き続きプライド月間キャンペーンを実施し、多様な性に関する啓発を行った。<br>・女性に対する暴力をなくす運動のパネル展示については、ソーレから借りたパープルリボンツリーを展示した。<br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>・ターゲットを意識した効果的な啓発が行えるよう努める<br>**◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | 3 | 広報・啓発と情報発信（庁内向け） | ・庁内向け掲示板でパネル展やソーレの講座等に関する情報発信を行った。<br>・男女共同参画推進本部部局推進員会では、ジェンダー平等の視点からワーク・ライフ・バランスを考える」をテーマに活動を行った。<br>・庁内各窓口へのALLYミニフラッグの設置を継続するとともに、職員がにじいろのまちピンバッヂの着用し、ALLYの見える化を行った。 | | R4 | A | ・引き続き、庁内向け掲示板での情報発信と、男女共同参画推進本部部局推進員会の活動を行う。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | 庁内向け啓発・情報発信を通じ、男女共同参画やジェンダー平等、多様な性についての意識の浸透を図る。<br>・庁内向け掲示板による情報発信<br>・男女共同参画推進本部部局推進員会の活動推進<br>・ALLY（アライ）の見える化推進 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 庁内における男女共同参画の意識の浸透、多様な性のあり方についての理解促進を図ることで、それらに配慮した施策の実施につなげる。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・庁内向けに男女共同参画・ジェンダー平等、多様な性のあり方に関する情報発信を行う。 | | | ・男女共同参画推進本部部局推進員会の活動を通し、職員に対し男女共同参画の意識の浸透を図った。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 845 | 125 | 105 | 0 | 0 |
| 担当課 | 人権同和・男女共同参画課 | | | | |

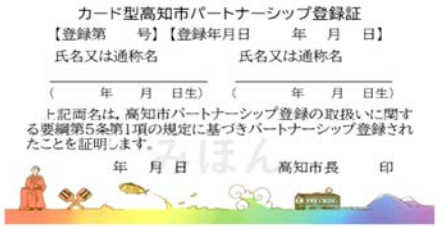
写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | 4 | 多様な性のあり方を尊重する取組の推進 | ・R8.3.31時点登録件数　39件<br>（うちR7年度件数　9件） | | R4 | A | ・パートナーシップ登録制度についての周知を図るとともに、引き続き適切な運用について務める。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | ・高知市パートナーシップ登録制度の運用 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 生物学的な性別、性自認、性的指向に関わらず、個人として尊重され、その個性と能力を発揮する機会が確保される社会づくりを目指す。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | 高知市パートナーシップ登録制度の適切な運用 | | | ・申請時のプライバシーへの配慮、手続きに関する問い合わせへの対応等、適切に実施できた。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | 決算額（千円）：R3 0 / R4 0 / R5 0 / R6 0 / R7 0 | ◆推進委員会の点検項目 | | | ◆推進委員会から点検コメント |
| | | 男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上ほか全8項目増加 | | 担当課：人権同和・男女共同参画課 | 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | | 【特に良かった点等】 |
| | | | | 写真等 | 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | | |
| | | | |  | 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | | 【課題等】 |
| | | | | | 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | ア<br>多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | No. 5　事業名：レインボースクール<br>**◆事業（概要）**<br>外部講師を派遣し、教職員・保護者・児童生徒が「性の多様性」について学ぶ場を提供する。<br>トランスジェンダーの方から直接話を聞くことで、その人の生き様から「ありのままに生きることの素晴らしさ」を心で感じるとともに、自分自身を含む「性の多様性」について学ぶ。<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>「多様な性のあり方」について学ぶことで、性別にとらわれることなく、自分らしさや一人一人の個性を尊重することの大切さを認識し、理解を深める。<br>**◆活動指標（目標）**<br>レインボースクール事業の対象校に本事業に関するアンケートを実施し、肯定的評価100%を目指す。<br>**（参考）関連する数値目標**<br>男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>令和6年度に引き続き、9日間で18校の小中学校に、暁プロジェクト 大久保暁さんを講師として派遣し、性の多様性についてご自身の経験をもとに講話を行った。実施日を増やしたことで、参加者は小学生・中学生・教職員を合わせ、のべ3,195名であった。<br>令和7年度の実施日<br>6/19(木)午前、午後の2校で実施<br>6/20(金)　〃<br>6/21(土)　〃<br>6/25(水)午前、午後の2校で実施<br>6/26(木)　〃<br>6/27(金)　〃<br>6/28(土)　〃<br>10/16(木)午前、午後の2校で実施<br>10/17(金)　〃<br>決算額（千円）：R3 166 / R4 167 / R5 224 / R6 344 / R7 345<br>担当課：人権・こども支援課<br>写真等<br> | 自己評価：R3 A / R4 A / R5 A / R6 A / R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>**◆検証《達成状況、その要因》**<br>学校からの申請は、毎年多く、児童・生徒の感想からも「学べて良かった」と肯定的評価が得られている。本事業の対象校に対して実施した事後アンケートにおいても、肯定的評価100%であった。<br>講話の内容は、講師の生い立ちや経験に基づく話に加え、基本的な知識を児童・生徒に分かりやすく伝える構成となっている。さらに、学校のニーズに応じて内容を柔軟に調整できる講師の姿勢も高く評価されている。<br>これらの点から、初めて実施する学校に加え、リピート校からの依頼も多く、本講師を招聘しての本事業の有効性が確認できる。<br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>人権学習については、一度の実施で終わるものではなく、継続した児童・生徒及び保護者に対して継続的な教育・啓発が必要である。そのため、今後も継続した学びの機会の提供が望まれている。<br>また、参観日に合わせて学習を実施した学校もあり、保護者や地域の方等の理解促進につながる等、社会教育の観点からも本事業の効果が確認された。<br>これらの状況を踏まえ、より多くの児童生徒、保護者への啓発を進めるため、予算措置の要望を行い、令和8年度も継続して実施する予定である。<br>県内において自身の経験に基づき、啓発や講演活動に携わる方はまだまだ少数である。このため、今後も県内在住の性的指向・性自認に関わる団体の方との連携も行い、より多くの児童生徒、保護者への学びや啓発の機会につなげたい。<br>**◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | ア<br>多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | No. 6　事業名：学校における男女平等教育の推進<br>**◆事業（概要）**<br>学校における男女平等に関する学習や男女共同参画についての学習を推進するため、人権教育に関する情報提供や各学校への指導・支援を行う。<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>次代を担う子どもたちが、成長していく過程において個性と能力を発揮できるよう、男女共同参画について学び理解する機会を提供するとともに、指導・支援していく。<br>**◆活動指標（目標）**<br>市立小・中・義務教育・特別支援学校（59校）において、男女平等や男女共同参画を実現するための人権学習が計画・実践され、令和7年度末の人権教育実践概要において「女性」の人権課題への取組実績として記載される学校の割合を100%とする。<br>**（参考）関連する数値目標**<br>男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>例年、年間2回実施する人権教育主任研修会の年度当初の会では、高知市の13の人権課題について児童生徒の発達段階に応じた学習計画を立てること、また、年度末には各学校の実践内容を取りまとめた実践概要報告を作成し、交流することを提案している。<br>令和7年度に実施された校内研修や年次研修等においては、人権教育は特別な取組として行うものではなく、すべての教育活動の中で行われるものであることを周知した。あわせて、家庭科における「家族の役割」等の学習機会において、男女平等の視点に留意し学習するなど、指導者の少しの配慮により、多様な形で啓発が可能であることを具体例を挙げて積極的に発信した。<br>決算額（千円）：R3 0 / R4 0 / R5 0 / R6 0 / R7 0<br>担当課：人権・こども支援課<br>写真等<br> | 自己評価：R3 A / R4 A / R5 A / R6 A / R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>**◆検証《達成状況、その要因》**<br>市立小・中・義務教育学校（59校）において、男女平等及び男女平等参画の実現に向けた人権学習が計画的に実践された。その結果、令和7年度末の実践概要報告集において「女性」の人権課題への取組実績として記載され、実施率は100%であった。<br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>本事業は、教職員が日々の授業において人権課題の視点との関連を踏まえた授業づくりを行い、児童生徒への適切な支援・指導につなげることを目的とするものである。<br>学校で行われる授業は、学習指導要領に基づき各学校で編成された教育課程のもと、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等において、教科横断的に実施されている。<br>特に中学校においては、家庭科や社会科の授業で「男女共同参画社会基本法」にふれ、家庭を支える社会の仕組みについて理解を深める学習をしている。<br>今後も、これらの取組を継続させるとともに、年次研修や校内研修等のさまざまな教職員研修の機会を活用し、高知市の13の人権課題の一つである「女性」の視点に触れ、教職員への啓発を進める。<br>**◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | No. 7 事業名：健康教育（性に関する指導）の推進 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>性に関する外部講師派遣事業を活用し、産婦人科医および助産師を講師として招聘し、発達段階に応じた性に関する授業を実施した。授業では、男女の体の仕組みや心身の変化について科学的根拠に基づいて説明していただくとともに、妊娠・出産の過程や生命の誕生について、スライドや動画資料を用いて具体的に示して更に学習した。<br>また、専門職の立場からの実体験を交えた話や、胎児の成長過程を示す視覚資料を活用するなど、児童生徒の関心を引きつける工夫が随所に見られ、性に関する知識の習得にとどまらず、「自分もかけがえのない存在である」という気づきにつながる学習機会となった。 | 自課評価：R3 B / R4 B / R5 B / R6 B / R7 B<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>◆検証《達成状況、その要因》<br>外部講師による講演を通して、児童生徒が性に関する正しい知識を得るとともに、性に関する悩みや疑問が生じた際に、安心して相談できる相手や場所があることを具体的に知ることができた。<br>さらに、胎児の成長や自身の成長過程を関連付けた内容が、児童生徒の実感を伴った理解につながっている様子がうかがえた。<br>その要因として、産婦人科医や助産師といった専門職が、科学的根拠に基づいた説明に加え、視覚資料や実体験を交えながらわかりやすく伝えたこと、事前打合せにより児童生徒の実態に配慮した内容構成がなされたことが、理解と共感を深める大きな要因であったと考えられる。 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>今後は、体育科・保健体育科における「性に関する指導」が学校教育活動全体の中でより効果的に位置付けられるよう、年間指導計画や他教科・領域との関連を意識した指導の在り方について継続的に支援していく。<br>また、産婦人科医や助産師等の外部講師を活用した専門的な指導や、胎児人形・沐浴人形を用いた体験型学習の提案を引き続き行い、児童生徒が実感を伴って命や性について学ぶことができる機会の充実を図る。<br>さらに、養護教諭の研修会等において各校の実践事例を共有し、性に関する指導の意義や具体的な指導方法の啓発に努めるとともに、教職員が性に関する正しい理解を深め、現代的な課題に適切に対応できるよう、専門性と指導力の向上を図っていく。 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | ◆事業（概要）<br>学校における「性に関する指導」について、体育科・保健体育科の他に生活科、理科、家庭科、道徳科等関連教科においても実施する他に、学校行事といった特別活動等、教育活動全体を通じて計画的に実施する。<br>子供たちの心身の発育・発達や性に関する内容について理解させ、健康づくりの大切さを認識させる。また、危険を回避するとともに、自らの健康を管理し、改善する能力を育てる。<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>・生命や人格の尊重、男女平等や男女相互の理解と協力の重要性、自己や他者を尊重する態度を育み、望ましい人間関係を築いていける資質や能力を育てる。<br>・性に関する科学的知識や自他の心身の健康のためにできることを学ぶことを通して、命や自他を尊重した行動選択・意思決定ができる態度を育成する。<br>◆活動指標（目標）<br>・外部講師派遣事業の活用や胎児人形やエプロンシアター等の教材を用いた体験型学習といった、命の大切さを具体的に学習できるように指導・支援する。<br>・養護教諭の研修会等で「性に関する指導」の計画的な取組を啓発する。<br>（参考）関連する数値目標<br>男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上ほか全8項目増加 | R3：0 / R4：0 / R5：0 / R6：0 / R7：0<br>担当課：学校教育課<br>写真等<br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan(計画) | Do(実施) | Check(点検) | Action(見直し) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | No. 8 / 事業名：市職員に対する研修 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・高知市実施の人権研修のほか、こうち人づくり広域連合実施の研修へ対象となる職員を派遣し、人権に関する啓発及び意識改革を行った。<br><br>・派遣研修は、各部局研修委員会から派遣研修の推薦を受け、選考を行った。 | 自課評価：R3 C / R4 B / R5 A / R6 A / R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>多様な価値観に対応するため、ダイバーシティや人権に関する最新の政策課題を柔軟にカリキュラムへ取り入れ、内容の充実を図る。<br><br>研修の実施に当たっては、各部局研修委員会と密に連携し、受講機会の最大化を図るとともに、派遣研修を積極的に活用することで、組織全体のマネジメント能力及び人権意識のさらなる底上げを目指す。 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | **◆事業(概要)**<br>こうち人づくり広域連合と連携し、男女共同参画社会づくりに係る研修や人権研修を実施する。<br>また、女性職員の能力開発や意識改革のため、自治大学校や市町村アカデミーなど各種研修機関へ積極的に派遣する。<br><br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>・男女の人権に対する啓発等、人権に対する市職員の意識啓発・能力発揮促進のために研修を実施する。<br>・階層別研修や管理職の研修等に男女共同参画社会づくり研修を実施、全職員また意思決定権限のある管理職員の意識改革を促す。<br><br>**◆活動指標(目標)**<br>・こうち人づくり広域連合実施の階層別研修を受講することで、各階層で男女の人権に関する啓発を継続する。<br>・職員の意識改革のために、2年目課長補佐級職員をダイバーシティ推進研修へ派遣する。<br>・女性リーダー職員育成のため、研修機関等へ計画的に派遣することで女性職員の能力開発の機会を継続する。<br><br>**(参考)関連する数値目標**<br>男女の地位が「平等」と回答した人の割合(全8項目):社会全体25%以上ほか全8項目増加 | 決算額(千円)：R3 48 / R4 100 / R5 177 / R6 251 / R7 182<br>担当課：人事課<br>写真等 | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>●階層別人権研修(新採研修延べ232人、基本(一般)研修162人、基本(管理職)研修48人)、人権研修推進員研修(95人)<br>●職場人権研修(3,438人)<br>●ダイバーシティ推進研修(35人)<br>●派遣研修<br>・市町村アカデミー「管理職を目指すステップアップ講座」(1人)<br>・国際文化アカデミー「リーダーのためのマネジメント研修」(1人)<br>・日本経営協会「地方自治体女性職員交流研究会」(1人)<br><br>人権研修推進員研修の受講者数は95人(前年度比16人増)と増加し、各職場における人権研修の実施に向けた所属長の意識向上が伺える。一方で、派遣研修等の少人数研修については、今後の波及効果を検証していく必要がある。<br><br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br><br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | No. 9　事業名：ソーレにおける広報・啓発及び情報提供 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | ◆事業（概要）<br>＜広報・啓発＞<br>情報紙「ソーレ・スコープ」発行（年4回）、メールマガジン発行、SNSによる情報発信等<br>＜情報提供＞<br>男女共同参画に関する図書・DVD・情報等の提供<br>図書・DVD購入、図書団体貸出、新聞クリッピング等 | 〈広報・啓発〉<br>・ソーレ・スコープ発行（年4回） 各7，000部<br>・メールマガジン発信件数　延べ5，854人<br>（登録者数499件）<br>・ホームページアクセス数　49，619件<br>・SNSによる情報発信<br>Facebook閲覧数　20，000件<br>X（旧Twitter）インプレッション数　90，913件<br>Instagramインプレッション数　47，000件<br>・SNSのフォロワー獲得に向けた取組（フォローするとエコバックを贈呈）を実施<br>・地域の防災イベント（高知市）及び人権フェスティバル（高知市）において啓発展示や情報紙等配布<br><br>〈情報提供〉<br>・図書、DVD蔵書数　11，846冊・本<br>・利用登録者数　8，451人<br>・図書団体貸出　7件　215冊　DVD5本<br>（市町村5件，大学1件，保育所1件）<br>・新聞クリッピング　更新24回 | R3：A<br>R4：A<br>R5：B<br>R6：B<br>R7：B<br>評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | 情報紙やホームページ、SNSによるより分りやすくきめ細やかな情報発信に努めるとともに、啓発誌や動画等の多様な啓発ツールの作成及び活用に努める。 |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | ◆検証《達成状況、その要因》<br>概ね目標は達成できているが、X（旧Twitter）インプレッション数が指標を下回った。SNSは若い世代の利用が多いとされるが、関心があるワードを検索し情報を得るというより、既にフォローをしているサイトのタイムラインをチェックしているという傾向があり、まず当センターをフォローしてもらえるよう、登録投稿の時間帯や興味を引いてもらいやすいよう、内容の工夫が必要。<br>新たな取り組みによりSNSのフォロワー数が増加した。 | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・情報紙　7、000部発行<br>・メールマガジン発信件数　延べ4,800件<br>・SNSによる情報発信<br>Facebook　リーチ数　10,000<br>Twitter　インプレッション数　200,000<br>・団体貸出先　10件 | 決算額（千円）<br>R3：5，859<br>R4：5，464<br>R5：5，947<br>R6：5，571<br>R7：4，985<br><br>担当課：ソーレ | | |
| | | （参考）関連する数値目標<br>男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | 写真等<br>（図書の様子をInstagramで紹介）<br> <br> | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | ― | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 多様な性の尊重と固定的な役割分担意識の解消 | 10 | 男女共同参画推進事業<br>（SOGIに関する講座） | SOGIに関する講座【オンデマンド配信】<br><br>講座名：自分と向き合うとき<br>～ほんとの自分と出会う～<br><br>開催日：10月6日（月）～26日（日）<br>講師：田代　悠<br>参加者：75名 | | R4 | B | 引き続き、次年度もSOGIに関する講座を実施し、性の多様性から自分自身のことを考え、多様性を認めあうことの大切さを学んでもらう。<br><br>実施時期：9月～10月頃<br>開催方法：オンデマンド配信 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | B | |
| | | ・SOGIに関する講座<br>ジェンダーの多様性への理解を深め、性自認、性的指向の尊重につながるよう啓発に取り組む。 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・SOGIに関する講座　参加者数　30名 | | | 市民に向けたSOGI及びジェンダーへの理解について講座を行い、啓発に努めた。講師が自信の性自認に気づいてから現在に至るまでの経験を、周囲との関わりや成長過程での苦悩・考え方を交えて語った内容は、多様性への理解を深めるきっかけになった。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | － | 127 | 147 | 187 | 61 |

| 担当課 | ソーレ |
|---|---|

写真等（講座チラシ）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | イ | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・庁内において審議会等への女性委員の登用について理解を求めるため、男女共同参画推進本部本部会、幹事会において、女性委員の登用及び取組状況を報告した。<br>・女性委員がいない審議会の所管課に女性委員登用に至っていない理由についてヒアリングを行うとともに、登用について働きかけを行った。 | 自己評価 | R3 | B<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>・引き続き庁内への働きかけを継続する。<br>・庁内関係課へヒアリング等を行い、女性委員を登用できない要因等を分析する。 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 政策、方針決定過程における男女平等の促進 | 11 | 審議会等の女性登用の推進 | | | R4 B<br>R5 B<br>R6 B<br>R7 B | | |
| | | **◆事業（概要）**<br>市が所管する各種審議会の女性委員比率の向上及び女性委員がいない審議会等の数を減少させるため、庁内関係課へ調査、働きかけ等を継続的に行う。 | | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>・女性委員を含まない審議会　11会<br>・女性委員比率　33.4%（前年度31.8%）<br>・女性委員比率は前年度より上昇した。<br>（令和7年5月1日現在） | | | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>政策・方針決定過程への男女平等の促進により、多様な市民の意見を反映させることができる。 | | 決算額（千円）：R3 0 / R4 0 / R5 0 / R6 0 / R7 0<br>担当課：人権同和・男女共同参画課 | **◆推進委員会の点検項目** | | | **◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】 |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>・庁内関係課へ調査を行うとともに、女性委員登用の働きかけを行う。 | | | 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | | |
| | | | | | 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | | |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>市の審議会等で女性がいない審議会数：0会 | | 写真等 | 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | | 【課題等】 |
| | | | | | 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | イ 政策、方針決定過程における男女平等の促進 | No. 12 事業名：各役職段階に占める女性職員の割合の向上<br>**◆事業（概要）**<br>高知市特定事業主行動計画に基づき、事務系の職種について男女の区別なく実績・能力に基づき、管理的地位への登用を行う。<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>女性が能力を十分に発揮できる職場環境を形成し、多角的な視点で業務を推進することで、住民の多様なニーズに対応できる。<br>**◆活動指標（目標）**<br>女性職員のキャリア形成についてイメージしやすいような情報や、ワークライフバランスに関する情報等を庁内掲示により周知する。<br>**（参考）関連する数値目標**<br>市職員の女性管理職（課長補佐以上）の割合：部長副部長14%以上　課長22%以上　課長補佐45%以上 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・高知市特定事業主行動計画において、令和7年度時点の数値目標等を設定しており、数値目標の達成に向けて、特定事業主行動計画や前年度の実績数値の他、ワークライフバランスに関する情報等について、庁内掲示を活用して周知を図った。また、令和8年3月に「高知市特定事業主行動計画」の見直しを行い、新たに令和8年度から5年間を計画期間とする計画を策定したことから庁内掲示にて周知を図った。<br>決算額（千円）：R3 0 / R4 0 / R5 0 / R6 0 / R7 0<br>担当課：職員厚生課 | 自己評価：R3 C / R4 C / R5 C / R6 B / R7 B<br>評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った<br>**◆検証《達成状況，その要因》**<br>○令和7年度の実績（女性職員の割合）<br>・部長・副部長級：23.4%<br>・課長級：21.0%<br>・課長補佐級：48.8%<br>各役職段階に占める女性職員の割合について、数値目標（令和7年度末時点）の達成には至っていないものの、全体的に上昇傾向が続いている。引き続き庁内掲示を活用した積極的な情報提供に努めていきたい。<br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>女性職員の活躍のためには、長時間勤務の是正や男性の家事・育児等への参加、固定的性別役割分担意識の解消等が課題であり、女性職員に限らず広く職員全体への意識付けが必要であると考えている。そのためにも、引き続き庁内掲示を活用し、ワークライフバランスや女性活躍に関する情報提供に努めていきたい。<br>**◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | イ | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 政策、方針決定過程における男女平等の促進 | 13 | 人材育成事業（女性の活躍応援） | 女性の活躍応援講座【オンデマンド配信】<br><br>講座名：「型破りなキャリアのつくり方<br>専業主婦から社長へ」<br><br>開催日：10月17日（金）～30日（木）<br>講師：橋本　真由美（公益財団法人相模原市まち・みどり公社理事長／ブックオフコーポレーション元代表取締役社長）<br>参加者：84名 | | R4 | A | 次年度も企業研修としての活用を想定し、オンデマンド配信により実施。<br><br>実施時期：10月<br>実施方法：オンデマンド配信 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | ・女性の活躍応援<br>職場や地域で活躍する女性が政策・方針決定過程への参画等、活躍の場を広げ、リーダーシップを発揮するために必要な能力を磨く講座の実施。<br>（オンライン配信） | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・女性リーダー育成につながる研修の実施<br>・企業研修としての活用を想定としたオンラインで実施 | | | 女性活躍に必要なマインド＆スキルアップにつながった。また、講師の力強く温かなメッセージが背中を押す講座となった。企業研修としての活用を想定し、オンデマンド配信で実施。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 91 | 424 | 160 | 157 | 217 |

| 担当課 | ソーレ |
|---|---|

写真等（講座チラシ）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | イ | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・ソーレホームページの統計資料を収集し、ホームページに関連データのリンク先を掲載した<br><br>・県民からの企画提案事業「女性差別撤廃条約批准40周年　ジェンダー平等者会の実現へ！わたしのねがい」講演会の実施を委託<br>参加者：128名<br><br>・ソーレまつり2026において、シンポジウム「ただいつづける女たち～均等法前夜から明日へつなぐバトン～」を開催<br>参加者：28名<br><br>・3月8日の国際女性デーに合わせて、「女性の政治参画企画展」を実施し、ソーレのアトリウムにパネルを展示した。 | 自課評価 | R3 | A | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>講演、研修会の開催等啓発事業を通じた政治分野への女性の参画に関する情報の提供を行うとともに、情報紙やホームページ、SNSによる情報発信や多様な啓発ツールによる意識啓発を行う。 |
| 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう | 政策、方針決定過程における男女平等の促進 | 14 | 情報の収集及び提供、広報・啓発事業（政治分野への女性の参画） | | | R4 | A | |
| | | | | | | R5 | A | |
| | | | | | | R6 | A | |
| | | | | | | R7 | A | |
| | | **◆事業（概要）**<br>・情報収集及び提供、広報・啓発<br>情報紙、SNS、ホームページ等を活用し、政治分野への女性の参画に関する情報提供及び啓発を行う。 | | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>様々なデータの提供、講演会等企画運営を委託することにより、女性参画の現状及び女性の政治分野への参画拡大の重要性について、県内広域での周知をすることができた。 | | | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | | | | |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>情報紙及びSNSを通じ、政治分野への女性の参画に関する情報等を発信する。 | | | | | | |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>男女の地位が「平等」と回答した人の割合（全8項目）：社会全体25%以上　ほか全8項目増加 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | － | － | － | － | － |

| 担当課 | ソーレ |
|---|---|

写真等（企画展の様子をInstagramで紹介）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| ＤＶやハラスメントのない社会をつくりましょう | ＤＶ・性犯罪等暴力を根絶するための啓発の充実 | 15 | 人権啓発の推進 | ●啓発活動　計23回<br>・「部落差別をなくする運動」強調旬間事業記念講演会演題：「部落問題を通して考える日常の中の差別」講師：上川　多実さん　参加者178名<br>・「部落差別をなくする運動」強調旬間事業映画「ある精肉店のはなし」上映会　参加者：24名<br>・人権週間事業企業向け講演会演題：「法律から実践へ～合理的配慮の導入方法～」講師：川島　聡さん　参加者56名<br>・人権の花運動（人権擁護委員との連携）の実施　小学校等10か所<br>・サッカー、野球教室（高知県人権啓発センター主催）での啓発　計2回<br>・出前講座等　8回　延べ319名 | | R4 | A | ・令和8年3月に策定した「高知市人権施策推進基本計画（令和8年度～令和12年度）」に基づいて、引き続き講演会や出前講座等の啓発活動を行っていく。その中で市民の関心を高め、広く啓発を行っていくため、開催内容や周知方法等、ニーズに応じた手法を検討する。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | 人権尊重の意識を高める啓発活動を実施する。（講演会、関係機関と連携した人権啓発、出前講座など） | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 市民一人ひとりが人権尊重の理念に対する理解を深め、社会全体の人権意識の高揚をはかる。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | 講演会等の啓発活動を年15回以上とする。 | | | ・部落差別をなくする強調旬間事業及び企業向け講演会のアンケートで「人権についての関心や理解が深まった」との回答が平均して85%を超えていた。<br>・出前講座では「じんけんってなんだろう」「高知市の人権施策及びにじいろのまちの取組について」等にて人権を尊重する意識や高知市の掲げる人権課題に対する関心を高め、正しい理解の普及を図るための出前講座を行った。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | DVを内容まで知っていると答えた人の割合：70%以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1,691 | 1,457 | 1,481 | 1,305 | 1,183 |

| 担当課 | 人権同和・男女共同参画課 |
|---|---|

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等暴力を根絶するための啓発の充実 | 16 | DV防止啓発 | ・パネル展開催（11月10日～11月28日、高知市役所本庁舎1階北側通路）<br>・庁内トイレのDVカードの設置（44箇所）<br>・課Instagramでの記事掲載 | | R4 | C | ・SNS等を活用し、若年層を対象に継続して啓発を行っていく。<br>・DVで悩んでいる方に必要な情報が届くように、庁内各課や他機関と協力した啓発方法を検討する。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | ・DVに関する相談先の周知に努める。<br>・DVについて正しい知識を持てるよう、若年層への啓発に努める。 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | DV等について正しい認識が持てるよう、若年齢期からの啓発に努める。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | DV等の防止啓発のために、パネル展開催（年1回以上）、SNSによる広報、庁内トイレへのDVカードの設置（44箇所）を継続する。 | | | ・パネル展の開催、DVカードの設置、課Instagramへの記事掲載を行った。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | DVを内容まで知っていると答えた人の割合：70%以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 560 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 担当課 | 人権同和・男女共同参画課 | | | | |

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ア | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・学生・生徒等を対象にデートDVに関する出前講座を実施し、意識啓発及び情報提供を行い、参加者へのDV防止啓発を実施<br>実施件数：5件　参加者：609名<br><br>・DV防止啓発講演会を開催<br>参加者：会場55名、オンデマンド443名、オンライン34名<br><br>・小学生と高校生ボランティアにDV防止の周知・意識啓発を行った。<br><br>・情報紙　ソーレスコープ116号にDV防止講演会（R7年度実施）の概要について寄稿を掲載し、意識啓発を行った。<br><br>・パープルリボン・オレンジリボンツリーを高校、高知市役所に設置し、啓発を行った。 | 自課評価 | R3 | B | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>男女共同参画及び女性問題について，デジタル啓発誌や動画等の多様な啓発ツールを作成し，出前講座やSNS等を通じて啓発し，県民の正しい理解につなげる。 |
| | | | | | | R4 | B | | |
| | | | | | | R5 | A | | |
| | | | | | | R6 | A | | |
| | | | | | | R7 | A | | |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等暴力を根絶するための啓発の充実 | 17 | DV・デートDVに関する啓発及び情報提供 | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>出前講座や講演会等の実施により、参加者のDV防止に向けた理解が進んだ。 | | | |
| | | **◆事業（概要）**<br>・啓発（講演会、啓発事業、出前講座等）<br>DV防止を広く啓発する講演会、啓発事業、出前講座、関連講座の実施 | | | | | | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | | | | |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>・講演会（オンライン配信）　参加者数100名<br>・啓発事業の実施<br>・出前講座、関連講座（家族のコミュニケーションに関する講座）の実施 | | | | | | |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>DVを内容まで知っていると答えた人の割合：70%以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 338 | 346 | 343 | 448 | 420 |
| 担当課 | ソーレ | | | | |

写真等（講演会）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| ＤＶやハラスメントのない社会をつくりましょう | ＤＶ・性犯罪等暴力を根絶するための啓発の充実 | 18 | 児童虐待予防推進事業 | 要保護児童対策地域協議会の実施（実務者会議年24回・新規ケース連絡会年12回・代表者会議年1回・個別ケース会議年162回）を開催し、児童虐待予防をメインとして男女の人権尊重にも触れた。<br><br>・子育て応援講演会を、令和7年11月2日に開催。（参加者49名、アンケート回答41名、回収率93%）広報紙あかるいまち以外に、各関係機関へのチラシの配布し、ホームページ、SNS（facebook、LINE）、ケーブルテレビ等を利用し、積極的に呼びかけし参加者を募った。<br><br>・関係機関に対し、児童虐待対応研修を4地区で4回（参加者合計50名）、保育所での対応研修を1保育所4回（参加者合計67名）実施した。 | | R4 | B | 市が主催する子育て応援講演会は、令和7年度で終了し、NPO法人への委託による児童虐待対応研修の実施のみとなる。<br>当該研修は保育園や専門学校で事例を用いて支援方針検討等を行うこととなっており、子育て世帯における男女共同参画の視点の啓発につながるよう事業を展開する。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | B | |
| | | ・要保護児童の早期発見や適切な対応を図るために、関係機関、関係団体及び児童の福祉に関連する職務に従事する者等により構成される「要保護児童対策地域協議会」において、当該児童に関する情報や支援についての考え方を共有し、適切な連携のもとで対応する。<br>・児童虐待問題に対する深い関心と理解促進、また、虐待の発生予防、早期発見・早期対応推進のため、児童虐待対応研修の実施や、広報紙、講演等を通じて、継続的な広報・啓発活動を行う。 | | | | R6 | B | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | B | |
| | | 子どものいる家庭におけるDVは、児童の人権を著しく侵害し、その心身の成長や人格の形成に重大な影響を与えるとともに、将来の世代の育成にも懸念を及ぼす問題であり、関係機関等が連携しつつ、適切な対応に努める必要がある。<br>また母親が被害者である場合、長期の支配下で依存傾向が強く、判断能力の低下や、経済的自立に段階的な対応が必要な場合があり、特に女性相談支援センターや母子生活支援施設との連携が重要となる。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・実務者会及び新規ケース連絡会を毎月開催し、関係機関との情報共有や援助方針の見直し等を行うことにより、要保護児童等への適切な支援を図る。<br>・児童虐待についての正しい理解と認識を深めることができるよう、児童虐待予防講演会（年1回）を実施する。 | | | 子育て応援講演会は「ペアレントトレーニング～楽しく子どもとかかわるには～」をテーマとし、困った行動への対応や声掛けの仕方等を学び、親が子どもに無理なく関わり、落ち着いて接することができるように子育て世帯への啓発を行った。それぞれの立場で子どもの抱える課題と寄り添い方を見つめ直すきっかけとなった。<br>児童虐待対応研修においては、乳幼児期の親の心理的特性に焦点を当て、支援者のより効果的なアプローチ方法を考察した。日頃から母だけではなく父も子育てへ関わりを持つことの重要性を伝え、男女共同参画の視点についても意識啓発している。 | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | DVを内容まで知っていると答えた人の割合：70%以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 846 | 837 | 853 | 814 | 859 |
| 担当課 | 子ども家庭支援センター | | | | |

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ア | No. 19 事業名 情報モラル教育の推進 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>・学校等からの出前授業の依頼には100％対応した。<br>・本事業開始から10年を迎え、出前授業の実施学年が、小学校低学年に広がっている。児童生徒への授業の際は、「どのように使ったらよいのか、どんな工夫ができるのか」を学べるよう構成している。また、保護者に対する啓発が増加している。そのことに伴い、参観日や就学時検診時など、多様な機会に保護者や教職員に対する啓発を行った。<br>・小・義務教育学校の2年生と6年生に情報モラルの合言葉「あみのめせかい」をデザインした啓発クリアファイルを配付した。<br>・小・義務教育学校4年生から6年生までの3年間を通して使用することを目的とした「あみのめせかいノート」を、小・義務教育学校4年生に配付した。 | 自課評価 R3 A / R4 A / R5 A / R6 A / R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った<br>◆検証《達成状況、その要因》<br>・学校からの依頼には100％対応できた（授業総数167回、延べ11,709人に実施）<br>・学校からは、実際にあったトラブルや事案をもとに授業を実施してくれたことで児童生徒にはストレートに指導が入り、助かったという声や、色々な校種や職種の方が来ていただいたことで、より専門的な観点で授業を展開してくれて効果的だったという声をいただいた。<br>・日常的にタブレットの使用や家庭への持ち帰りが当たり前となり、家庭でのタブレットの使用時間が長くなっていたり、低学年のうちからスマートフォンを所持していたりと低学年からの授業依頼も増えたが、依頼にはすべて対応できた。 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>・SNS等でのトラブルの増加など、今まで以上に学校と連携して、児童生徒だけでなく保護者や教職員への情報モラル教育の推進や啓発が必要になると考える。しかし、出前授業の実施が少年補導センター主体になってしまっているため、学校主体で取り組んでいただけるように依頼書への記載や、授業内容の改善、「あみのめせかいノート」の活用等を呼びかけていく。<br>・令和7年度は、非行防止の観点から、「少年の立ち直り支援活動等に関する協定（三者協定）」に基づき関係機関と連携した「課題予防的生徒指導」の指導方法を作成した。具体的には、関係機関との意見交換を通じ、各機関の知見を取り入れた「境界線（バウンダリー）」という概念を授業作りに導入し、出前授業に取り入れた。この手法を、情報モラルに関する授業づくりに生かすことが必要である。<br>・年々新しいソフトや機能が開発されているの |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等等暴力を根絶するための啓発の充実 | ◆事業（概要）<br>インターネットに関する正しい知識や使い方を身に付け、自分で危険を判断し、トラブルを回避できる知恵と心を身につけた子供を育てるため、情報モラル教育を進める。<br>・講演、出前授業<br>・広報、啓発<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>未成年の健全育成という観点から加害者にも被害者にもさせないという意識で啓発・指導に取り組む。<br>◆活動指標（目標）<br>・依頼のあった学校等で情報モラルの講演や出前授業を実施する。依頼への対応　100％<br>・インターネットの危険性を伝えるとともにフィルタリングの必要性や正しいネットとの付き合い方等を指導、広報していくよう啓発し教職員の指導力や保護者の意識向上を図る。<br>（参考）関連する数値目標<br>― | 決算額（千円） R3 528 / R4 574 / R5 282 / R6 443 / R7 71<br>担当課 少年補導センター<br>写真等<br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性 ・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性 ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性 ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮 ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | イ | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・人権相談　20件（うち、DVに関するもの7件）必要に応じ、専門の窓口を案内した。<br>・職員が各種研修や人権啓発活動に関する協議（部落解放・人権西日本夏期講座、部落解放研究全国集会、高知市人権教育研究協議会、人権啓発活動ネットワーク協議会、高知県市町村人権教育・啓発担当者連絡協議会他）に参加し、資質向上を図った。<br>・特設人権相談（人権擁護委員による相談）について市ホームページでの案内をした。<br>・令和8年3月に策定した「高知市人権施策推進基本計画（令和8年度～令和12年度）」に定める人権課題に関する相談・支援一覧のチラシを作成した。 | 自己評価 | R3 | A | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>・引き続き研修等に積極的に参加し、職員の相談スキルの向上等に努めるとともに、人権擁護委員等と連携し、相談に対応していく。<br>・出前講座等で相談・支援一覧のチラシを配布することで、相談・支援先の周知を図り、相談しやすい環境整備に努める。 |
| | | | | | | R4 | A | |
| | | | | | | R5 | A | |
| | | | | | | R6 | A | |
| | | | | | | R7 | A | |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等暴力の被害者への支援 | 20 | 人権全般における相談体制の充実 | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>・研修等を通じて、職員の資質向上を図ることができ、人権相談に対しても適切に対応できた。 | | | |
| | | **◆事業（概要）**<br>・様々な人権問題についての相談に応じ、関係機関と連携し必要な支援を行う<br>・特設人権相談所の開設<br>・相談にあたる職員の資質の向上を目的に各種研修会へ参加する | | | | | | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>あらゆる人権課題の解決とすべての人の人権が尊重される社会の実現を目指す。 | | 決算額（千円）：R3 15 / R4 48 / R5 70 / R6 95 / R7 195<br>担当課：人権同和・男女共同参画課 | **◆推進委員会の点検項目** | | | **◆推進委員会から点検コメント** |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>・人権相談の受付、必要な機関につなげる。<br>・研修等を通じて相談にあたる職員の資質向上及び相談窓口の周知を図る。<br>・法務局人権擁護委員と連携し、市民からの予約に応じて特設人権相談所を開設する。 | | 写真等<br> | 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | | 【特に良かった点等】 |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>DVについて誰（どこ）にも相談しなかった人の割合：30%以下 | | | 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | | |
| | | | | | 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | | 【課題等】 |
| | | | | | 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | イ | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・庁内ネットワーク会議を開催（4月25日）<br>・包括的相談支援会議に（3回）参加し、庁内の支援体制について情報共有を行った。<br>・県主催の会議へ出席（3回）。 | 自己評価 | R3 | A | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>・引き続き定期的にネットワーク会議を開催する。また、庁内関係各課と密に連絡を取り合い，情報共有することで、連携を深める。<br>・包括的相談支援会議に参加することにより、庁内の連携体制を深める。<br>・女性支援相談センター等の庁外関係機関とも連携強化を努める。 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等暴力の被害者への支援 | 21 | DV等被害者支援ネットワーク会議の連携強化 | | | R4 | A | |
| | | | | | | R5 | A | |
| | | | | | | R6 | A | |
| | | | | | | R7 | A | |
| | | | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | **◆事業（概要）**<br>・緊急かつ重大な被害を未然に防止するため,スムーズな庁内・庁外の連携を図る。<br>・相談者の安全に配慮し、DV等被害者支援の知識や能力を持つ職員の育成に務める。 | | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>・庁内ネットワーク会議にて、関係各課との情報共有、意見交換を行った。<br>・県主催の会議へ出席し、庁外関係機関との連携強化を図ることができた。 | | | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>・被害者が配偶者等からの暴力で心身ともに傷ついていること、個別の状況があることに留意し、その人の立場に配慮した対応を徹底する。不適切な対応により,被害者に更なる被害（二次的被害）が生じることのないよう配慮する。 | | 決算額（千円）：R3 0 / R4 0 / R5 0 / R6 0 / R7 0<br>担当課：人権同和・男女共同参画課 | **◆推進委員会の点検項目** | | | **◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】 |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>・DV被害者を支援する関係各課との連携、情報共有を図る。<br>・DV被害者の個人情報が漏洩しないよう個人情報の取扱に留意する。 | | 写真等 | 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | | |
| | | | | | 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | | |
| | | | | | 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | | 【課題等】 |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>DVについて誰（どこ）にも相談しなかった人の割合：30%以下 | | | 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | イ | No. 22 事業名：DV被害者の市営住宅入居 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・DV被害を受けており、住宅に困窮しているとの申し出がある方からの相談に応じた（来所しての相談は、R7年度中4件）。<br>・公募時の申込条件の緩和ができる旨を説明し、緊急の場合は目的外入居についての説明を行った。 | 自課評価：R3 / R4 / R5 / R6 B / R7 B<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>・相談者から問い合わせがあった際は、まず相談機関へ相談済みか問うこととし、被害につき相談の上、発行される証明書が必要であることを伝える。<br>・事業内容につき聞きたいということであれば説明することとし、安易に被害状況について聞き取りを行わない（最終的に当課へ繋がることとなれば、その際に詳しく、関係機関及び本人から聞き取る必要があるため）。 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等暴力の被害者への支援 | **◆事業（概要）**<br>DV被害者の住宅確保のため、公募時の申込条件の緩和（DV被害者である確認ができたものについては婚姻関係が解消されたとみなし、母子・父子等世帯向住宅または単身者向住宅への入居資格を有する）や緊急を要する事情がある場合には市営住宅の目的外入居を行う。<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>関係各課と連携し、DV被害者が安心して支援を受けられる体制を充実していく。<br>**◆活動指標（目標）**<br>DV被害者からの相談に応じるとともに、住民異動や福祉に関する相談についても関係各課と連携を取り、市営住宅に係る情報提供についても積極的に行っていく。<br>**（参考）関連する数値目標**<br>DVについて誰（どこ）にも相談しなかった人の割合：30%以下 | 決算額（千円）：R3 / R4 / R5 / R6 － / R7 －<br>担当課：住宅政策課<br>写真等 | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>・関係機関とも連携し 2件については、緊急性を要することから目的外入居の申請を受け付け、許可を行った（内1件については既に退去済）。公募での申込0件。<br>・配偶者暴力対応機関等（以下、相談機関）に相談する前に当課へ相談している場合、話を聞くようにしているが、被害状況や緊急性について当課では判断し難いため、 当課での事業内容について一度説明の上、相談機関への案内をしている（相談者からすれば何度も同じ話を聞かれるため、二度手間と感じるのではないか）。<br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | イ | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・一般相談　2，004件<br>・法律相談　月2回（1回4名まで）　95件<br>・こころの相談　月2回（1回2名まで）47件<br>・男性相談　月4回（1回2名まで）　71件<br>・性的少数者対象：にじいろコール～LGBTsに関する相談～　月1回　4件 | 自課評価 | R3 | A | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>・総合的な相談窓口として、情報紙、ホームページ、SNS等で広報し、相談につながるよう引き続き取組む。 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等暴力の被害者への支援 | 23 | 相談事業 | | | R4 | A | |
| | | **◆事業（概要）**<br>・女性対象：一般相談（開館日）<br>・専門相談（法律相談／月2回、こころの相談／月2回）<br>　令和3年度からこころの相談を月2回に拡充<br>・男性対象：月4回<br>・LGBTsに関する電話相談（にじいろコール）／月1回 | | | | R5 | A | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>　社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | | R6 | A | |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>・一般相談　2,000件以上（DVを含む） | | | | R7 | A | |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>DVについて誰（どこ）にも相談しなかった人の割合：30%以下 | | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>一般相談件数は前年度比3.4%減となったものの、前々年度以前と比較すると2，000件前後で推移しており、例年並の水準だった。こころの相談及びにじいろコールの相談件数は前年度より減少したが、法律相談及び男性相談は前年度より増加した。 | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 0 | 0 | 1，741 | 1，670 | 1，714 |

| 担当課 | ソーレ |
|---|---|

写真等（相談窓口紹介チラシ）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | イ | No. 24 事業名：相談体制の充実 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | DV・性犯罪等暴力の被害者への支援 | ◆事業（概要）<br>相談関係者に対する研修及び相談に関連する女性問題の解決に向けた啓発<br>・相談員スキルアップ研修<br>・相談関連講座<br><br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。<br><br>◆活動指標（目標）<br>・相談員スキルアップ研修　実施回数:2回、参加者数:各20名<br>・相談関連講座<br>実施回数1回、参加者数20名<br><br>（参考）関連する数値目標<br>DVについて誰（どこ）にも相談しなかった人の割合：30%以下 | ・相談員スキルアップ研修<br>テーマ：「喪失を支える～回復のプロセスと寄り添う支援～」　全2回実施<br>①第1回<br>参加者：会場13名、オンデマンド91名<br>②第2回<br>参加者：会場14名、オンデマンド53名<br><br>・相談関連講座<br>①「もう会えない人を思う夜に」<br>参加者：68名<br>②女性居場所づくり「ゆるりのしっぽ」<br>実施回数：2回<br>参加者：延べ54名<br>※　食支援ネットやコスメバンクプロジェクトと連携し，食品や化粧品希望する方に無償で提供 | R3：B<br>R4：B<br>R5：B<br>R6：B<br>R7：B<br><br>評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った<br><br>◆検証《達成状況、その要因》<br>・相談員スキルアップ研修<br>研修を通じて、県内相談機関及び相談員との連携を推進することができた。また、オンデマンド配信を実施したことで、受講者の増加につながった。<br><br>・関連講座<br>女性の居場所づくり「ゆるりのしっぽ」において「ふらりっとゆるりっとつながる相談会」を2回開催。複合的な悩みを抱え、生きづらさを感じている女性の孤立や孤独を防ぐよう、一時的な支援と合わせて、安心して相談できる機会を提供できた。 | ・相談員スキルアップ研修<br>相談業務ができるよう。スキルアップを目的とした研修を実施し、研修の機会を通じた県内相談機関及び相談員との顔の見える連携をづくりの推進を図る。<br><br>・女性の居場所づくり事業「ゆるりのしっぽ」全4回（講座3回、相談会1回）<br>①5月10日<br>語ることからはじまる私の気持ち<br>②7月13日<br>つづることで見つめる自分の思い<br>③9月28日<br>笑うことで心も身体も軽やかに<br>④12月20日<br>ふらりっとゆるりっとつながる相談会 |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 378 | 654 | 518 | 647 | 348 |
| 担当課 | ソーレ | | | | |

写真等（講座チラシ）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan(計画) | Do(実施) | Check(点検) | Action(見直し) |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ウ | No. 25 事業名 ハラスメント防止研修 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | あらゆるハラスメントを防止するための啓発の充実 | ◆事業(概要) | 管理職を対象としたハラスメント防止研修(職場環境づくり研修)については、受講機会を最大限に確保するため、全8コースを設置した。<br>また、本研修は令和2年度から継続実施しており、受講者が基礎知識を習得済みであることを前提として内容を構成した。具体的には、心理的安全性の重要性や事案発生時の対応方法、自己の行動傾向に関するグループワーク(ケース検討)を取り入れるなど、より実践的な内容とした。<br>なお、令和6年度からは受講対象を部長級まで拡大しており、組織全体で取り組むべき課題として、より効果的な啓発の機会となった。 | R3 A<br>R4 A<br>R5 A<br>R6 A<br>R7 A<br>評価基準<br>A:目標達成<br>B:概ね達成<br>C:少し下回った<br>D:大きく下回った | ハラスメントのない職場を目指して、研修内容の充実を図るとともに、受講対象者に研修の必要性を理解させ、受講を促す。<br>また、研修の効果についても検証し、今後の研修内容に反映していく。 |
| | | 市職員等を対象としたハラスメン防止研修を実施し、職場におけるハラスメントの防止と、ハラスメントの事態が生じた際の迅速・適切な対応について、理解を深めてもらう。 | | ◆検証《達成状況、その要因》 | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | ●風通しの良い職場環境づくり研修・・・(336人、受講率76%)<br>・ハラスメント苦情相談員の設置について、新採研修(4月、10月、1月実施)において周知を行った。<br>※相談員の設置案内については、毎年全庁掲示にて周知していたが、所管が職員厚生課に変更したため人事課からの案内は無し。 | |
| | | 職員一人ひとりが、お互いの価値観等の違いを認め、尊重し、協力し合うことで、ハラスメントのない心理的安全性の高い職場づくりを目指す。 | | | |
| | | ◆活動指標(目標) | | ◆推進委員会の点検項目 | ◆推進委員会から点検コメント |
| | | ・管理監督職員を対象に、ハラスメント防止に関する内容を含めた職場環境づくり研修を実施する。<br>・ハラスメント苦情相談窓口の周知を図る。 | | 必要性:・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性:・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性:・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮:・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | 【特に良かった点等】<br>【課題等】 |
| | | (参考)関連する数値目標 | | | |
| | | セクシュアル・ハラスメントを内容まで知っていると答えた人の割合:70%以上 | | | |

| 決算額(千円) | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 担当課 | 人事課 | | | | |
| 写真等 | | | | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ウ | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | あらゆるハラスメントを防止するための啓発の充実 | 26 | 出前講座 | ・サポーター講師<br>9件　参加者数1,979名（うち男性519名） | | R4 | A | ・引き続き広報によるニーズの掘り起こしや、郡部からも参加しやすいように、講座のオンデマンドまたはライブ配信を活用する。<br>・ソーレ登録のサポーター講師の発掘を行う。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | ハラスメント防止に関する出前講座の実施。 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | 評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | 申込に応じて出前講座に講師を派遣する。 | | | 前年度に比べ、出前講座の依頼件数は47%、参加者数は4.7%と減少した。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | セクシャル・ハラスメントを内容まで知っていると答えた人の割合：70%以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 29 | 58 | 103 | 139 | 85 |

| 担当課 | ソーレ |
|---|---|

写真等（出前講座紹介チラシ）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ウ | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | D 評価基準 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| DVやハラスメントのない社会をつくりましょう | あらゆるハラスメントを防止するための啓発の充実 | 27 | 性的少数者に関する電話相談 | 月1回　相談件数4件<br><br>実施時期　毎月第4土曜日<br>13:30～16:30<br><br>実施方法　専門相談員による電話相談<br><br>情報紙に相談室の案内を毎号掲載するとともに、テレビ、ラジオ、SNS等により積極的な広報を行った。また、県立高校、高知市立中学校等の生徒にポケットカードを配付するとともに、高知市立小学校の保健室等へポケットカードの配架を依頼した。 | | R4 | B<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | 引き続き、相談窓口についての積極的な広報を行い、県内全域への周知を図る。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | B | |
| | | にじいろコール（LGBTsに関する相談）<br>毎月第4土曜日　13:30～16:30<br>専用電話番号（フリーダイヤル）で専門の相談員がLGBTsに関する相談を受ける。 | | | | R6 | B | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | B | |
| | | 社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | 相談件数は前年（6件）より減少した。 | | | |
| | | LBGTsに関する相談を受ける。 | | | | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | ― | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 218 | 156 | 157 | 156 | 156 |
| 担当課 | ソーレ | | | | |

写真等（相談窓口紹介チラシ）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自己評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | ワーク・ライフ・バランスの推進 | 28 | 男女共同参画推進企業表彰 | ・表彰企業数5社（応募5社）<br>・8月6日に本庁舎特別応接室にて表彰式を実施した。 | | R4 | A | ・多くの市内事業者へ応募してもらえるよう募集時の広報について工夫する。<br>・募集時の広報や表彰企業の好事例紹介を通し、市内事業者へ男女共同参画の取組の浸透を図っていく。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | 「男女がともに輝く高知市男女共同参画条例」に基づき、男女共同参画の推進に関する活動を積極的に実施している事業者を表彰し、市内事業者の男女共同参画推進を目指す。 | | | | R6 | D | |
| | | ◆男女共同参画の視点 | | | | R7 | A | |
| | | 育児・介護休業制度の充実やワーク・ライフ・バランスの推進、女性活躍を支援する取組などを積極的に実施する事業者を表彰することで、働く場におけるジェンダー平等の意識向上を図る。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | 表彰企業数　3社以上 | | | ・目標としていた表彰企業数を達成した。<br>・受賞企業の取組内容を紹介した動画を作成し、事業のPRを行った。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 高知市男女共同参画推進企業の表彰企業数：毎年3社以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 28 | 20 | 29 | 25 | 30 |
| 担当課 | 人権同和・男女共同参画課 | | | | |

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | ワーク・ライフ・バランスの推進 | 29 | 男性職員の子育て参加の促進 | ・育児休業を実際に取得した男性職員の名簿や、体験記を庁内掲示し、広く職員全体に対して周知を図った。また、男性職員の育児休業等取得促進に向け以下の取組を実施した。<br>〇男性職員に特化した育児に係る休暇制度をまとめた冊子の作成<br>〇男性職員の育児に係る休暇制度等に関する相談窓口の設置<br>〇子どもの誕生が予定されている男性職員からの育児休業を含む休暇取得計画の提出<br>〇育児休業取得に関する座談会の実施 | | R4 | B | ・本市の男性職員の育児休業取得率は順調に上昇しているが、特定事業主行動計画における新たな数値目標を達成するため、令和6年度より開始した新たな取組（育児休業等取得計画の作成や相談窓口の設置等）について、より実効性の高い取組となるよう適宜見直しを図っていく。<br>・配偶者出産時特別休暇や育児参加特別休暇の取得率は上昇しているものの、数値目標（取得率100%）には及ばないことから、休暇の内容や手続等について周知を図っていく。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | B | |
| | | 子どもが生まれる予定の男性職員による育児休業等の取得計画作成や所属長等による取得勧奨の取組等により、男性職員の育児休業等の取得促進を図るとともに、子育てに理解ある職場風土の形成を図るため、子育てや関係する各種制度について職員への継続的な情報提供を行う。 | | | | R6 | B | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | B | |
| | | 男性職員が積極的に育児に参加することで、家族の育児に対する不安やストレスが軽減されるとともに、配偶者のキャリア形成等につながる。 | | | 評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況，その要因》 | | | |
| | | ・子どもが生まれる予定の男性職員による育児休業等取得計画作成の他、所属長等による取得勧奨、育児に関する各種制度の相談窓口の設置等を行う。<br>・育児休業取得者名簿（男性）や、育児休業体験記等、庁内掲示により情報提供を行う。 | | | 〇令和7年度実績<br>・男性職員育児休業取得率： 89.4%<br>・配偶者出産時特別休暇取得率： 92.4%<br>・育児参加特別休暇取得率： 77.3%<br><br>・国の「こども未来戦略」に基づく各種施策により、男性の育児参加の機運が高まってきていることや、育児に係る休暇取得計画の提出、職員への継続的な情報提供等の取組により、男性の育児参加に関する職場の理解が進んできていると感じる。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 高知市男性職員の2週間以上の育児休業取得率：85%以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 担当課 | 職員厚生課 |
|---|---|

写真等

◆推進委員会の点検項目

| | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | ワーク・ライフ・バランスの推進 | 30 | 「高知市労働ニュース」の充実・情報提供の拡充 | 中小企業等に対する助成制度を中心に、労働関連法の改正等の情報を掲載した。<br>できるだけ多くの方に読んでいただけるように、読者目線で興味を引く内容となるよう心がけた。 | | R4 | B | 引き続き労働ニュースを発行し、雇用・労働の制度改正に関するニュースを中心に、時宜にかなった情報を届ける。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | B | |
| | | 平成18年度から発行している「高知市労働ニュース」で労働関係の施策について周知を図る。 | | | | R6 | B | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | B | |
| | | 働きたい人が性別にかかわりなくその能力を十分に発揮できるように、労働者や事業者に対して法や制度の周知を図る。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・「高知市労働ニュース」を年4回発行し、情報誌への折込や労働組合等に配布するとともに、市ホームページに掲載し幅広く広報を図る。<br>※配布先：情報誌「情報プラットフォーム」：1000部、労働組合：200か所 | | | 年4回発行（令和7年度の主な内容）<br>6月号：産業政策課の助成事業<br>9月号：育児・介護休業法の改正ほか<br>12月号：高知市技能功労者表彰式ほか<br>3月号：職場におけるハラスメントほか | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 高知市男女共同参画推進企業表彰の表彰企業数：毎年3社以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 9 | 10 | 6 | 6 |

| 担当課 | 産業政策課 |
|---|---|

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | | ◆推進委員会から点検コメント |
|---|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | 【特に良かった点等】 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | 【課題等】 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ア | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>男性の家事・介護への参加を促進し、性別役割分担についての気づきやワークライフバランスの充実について考える講座として座学や講話、親子料理教室等を実施した。<br><br>①家事男親子料理教室<br>講師：佐藤友哉（キャンプインストラクター）<br>参加者：10名<br><br>②家事男料理教室<br>講師：島村昌利（RKC調理製菓専門学校校長）<br>参加者：6名<br><br>③「介護に向き合う」男性介護者のためのオンデマンド　参加者：58名<br>講師：板原正伸、今井宏良、弘瀬廣澄（男性介護者） | 自課評価 | R3 | C | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>男女の性別役割分担意識への気づきと、身辺自立やワークライフバランスについて考える機会を提供し、男性の家事・育児・介護への主体的な参加を促進する。<br>夏休みシーズンに男性保護者（親、祖父）と子（孫）を対象とした料理教室を実施するとともに、家事講座、介護講座、相談会の全4回実施する予定。<br>また、講座の内容によるオンデマンド配信を検討し、受講者の増加につなげる。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | ワーク・ライフ・バランスの推進 | 31 | ワークライフバランス事業<br>（男性家事・介護基礎講座） | | | R4 | B | |
| | | **◆事業（概要）**<br>・男性家事・介護基礎講座<br>男性の家事・育児・介護への参画を促進し、男女の性別役割分業についての気づきと身辺自立やワーク・ライフ・バランスの充実について考える機会を提供する。夏休み親子教室、家事講座、介護講座の3講座を実施。 | | | | R5 | B | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | | R6 | A | |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>・男性家事・介護基礎講座<br>実施回数　3回　参加者数　66名 | | | | R7 | A | |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>― | | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>第3回講座をオンデマンド配信とすることで、来館が困難な介護者の参加につながった。固定的な性別役割分担意識やワークライフバランスについて考える機会を提供できた。 | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 27 | 163 | 219 | 108 | 105 |
| 担当課 | ソーレ | | | | |

写真等（講座チラシ、講座第2回目の様子）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 3<br>家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | イ<br>育児・介護における多様なニーズに対応した支援の拡充 | No. 32 事業名：地域の子育て支援・子育て相談 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>乳児や妊婦が多く利用する施設であることから、施設の衛生管理を徹底し、利用者が安心して過ごせる環境となるよう図った。<br>当事業を実施している施設は妊娠期から子育て期にかけて、切れ目ない支援を行い、保護者の性別に関わらず、利用することができる施設である。父親の利用は土日祝が中心ではあるが、育児休業中の父親の平日の利用もあり、父親が子どもと過ごしやすいよう母親とは違う関わり方ができるよう取り組んだ。<br>また、地域団体や学生等と連携した行事や講座の実施を通して、地域とつながるよう図った。 | 自己評価<br>R3 A<br>R4 A<br>R5 A<br>R6 A<br>R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>市内16か所の施設で、子育て親子が交流し、相談や情報提供等の援助が得られるよう事業を実施している。今後は地域との繋がりづくりに取組んでいく。<br>土曜日に6施設、日曜日に4施設、祝日に3施設が開設しており、父親を含め様々な家庭の事情に沿った利用しやすい環境となるよう図っている。<br>相談・情報提供においては、従来の電話に加えて、メールやブログ、SNS等を活用し、保護者等が必要な時に情報にアクセスできる環境を整えている。<br>なお、延べ利用者数の目標については、子ども・子育て支援法に定める市町村事業計画等に対応した本市における子ども・子育て支援を総合的かつ計画的に推進するための計画である「第3期高知市子ども・子育て支援事業計画（令和7年度～11年度）」にて設定している事業目標値である。 |
| | | ◆事業（概要）<br>地域子育て支援拠点事業（子ども育成課・保育幼稚園課所管） 乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談や情報提供、助言その他の援助を行う。<br>【子ども育成課所管】<br>社会福祉法人3か所、学校法人1か所に業務委託して市内4か所（東・西・南・北部）の地域子育て支援センターで実施。また、NPO法人が開設している地域子育て支援センター2か所と学校法人が開設している地域子育て支援センター2か所に補助実施。 | | ◆検証《達成状況、その要因》<br>延べ利用者数：84,301人<br>子ども：42,551人<br>大人：41,750人（うち父親4,013人）<br>施設数：16か所<br><br>市内16か所の施設で、子育て親子が交流し、相談や情報提供等の援助が受けられるよう取り組んだ。乳幼児期の親子が安心して利用できる環境づくりを進め、地域とのつながりや子育て家庭への支援の充実を図った。<br>延べ利用者数は令和7年度に引き続き目標を上回り、各施設での継続的な取組により一定の利用を維持した。<br>また、令和7年度においても父親の利用が継続して見られ、子育てへの男性参加が広がっている。 | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>性別に関わらず、育児に関わることが子どもの健全育成につながることから、交流・相談の場を男女ともに行きやすく身近なものとなるよう図り、子育て家庭が孤立しないよう、地域での子育て支援を推進していく。 | | | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・施設数（高知市合計）16か所<br>・地域子育て支援拠点事業　延べ利用者数（高知市合計）52,031人 | 決算額（千円）<br>R3：109,979<br>R4：118,639<br>R5：122,342<br>R6：138,259<br>R7：144,048<br>担当課：子ども育成課 | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>配慮・工夫：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br><br>【課題等】 |
| | | ◆（参考）関連する数値目標<br>社会資源「集いの場」状況：705以上 | 写真等<br> <br>地域子育て支援センター ぽけっとランド | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | イ | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>援助会員募集及び講習会案内を市広報誌に掲載するほか、地域の窓口センターや地域子育て支援センター、町内会の回覧板、市が包括連携協定を締結している市内のファミリーマートやこうち生協スーパーの店内、協力いただける市内の量販店やスポーツクラブ等に会員募集のチラシやファミリーサポートセンターの広報誌を配置し、広く周知を行った。<br>地域子育て支援センターで事業説明会と出張登録会を実施。利用希望者がスムーズに登録・利用できるよう図るとともに依頼会員及び援助会員の双方についてもPRした。また、企業との連携を強化し、企業での事業説明を実施するなど周知活動を展開した。<br>安全管理と地域支援の充実に向けて、保育サービス講習会、フォローアップ講習会、連絡調整会議を開催し、援助会員の資質向上に努めた。さらに、保育所等との連携、地域子育て支援センターへの巡回、事前打ち合わせへの立会いを実施し、地域における子育て支援体制の充実を図った。<br>性別に関わらず要件を満たせば会員登録が可能となっており、援助のマッチングに当たっては、子どもの性格や行動との相性に加え、内容に応じて援助会員個人の得意分野を活かすことができるよう配慮している。 | 自課評価 | R3 | B | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>令和7年度は会員数が137人増加し、会員数は年々増加傾向にあるが、活動件数は年々減少傾向にあるため、よりスムーズにマッチングができるよう援助会員の拡大を図る。その取り組みとして、市内量販店等でのPR強化を行うとともに町内会等地域組織と連携し、高知市公式LINE等を活用した広報を行う。<br><br>必要な子育て家庭が必要な支援につながるよう、地域子育て支援センターでの事業説明会と出張登録会を引き続き実施し、必要な支援につながる体制を整備する。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | 育児・介護における多様なニーズに対応した支援の拡充 | 33 | ファミリー・サポート・センター事業 | | | R4 | B | |
| | | | | | | R5 | B | |
| | | | | | | R6 | A | |
| | | | | | | R7 | A | |
| | | ◆事業（概要）<br>・子育てと仕事の両立支援を主な目的とした有償ボランティアによる相互援助活動。育児の援助を受けたい人（依頼会員）と行いたい人（援助会員）が会員となり、ファミリー・サポート・センターが仲介。<br>・事業は(公財)高知勤労者福祉サービスセンターに委託して実施。<br>・援助内容は、保育施設・学校等への子どもの送り迎え、保育施設の時間外や学校の放課後等、また保護者の病気や冠婚葬祭等の急用時の子どもの預かり　など。援助会員になるためには、所定の講習の受講が必要。<br>・利用料は援助活動終了後、依頼会員が援助会員に直接支払う仕組み。利用料⇒600円～700円/時間（曜日や時間により異なる） | | ◆検証《達成状況、その要因》<br>令和7年度は、地域子育て支援センターでの出張登録会も継続実施し依頼会員と援助会員事前打合せに立会うなど、効果的な実施により、会員数合計は目標を上回った。<br>保育サービス講習会を4回実施し、延べ53人が参加し、このうち35人が援助会員として登録した。<br>今後も、援助を希望する人や援助したい人に情報を届けることができるよう広報方法等の工夫・検討を行うとともに、サブリーダー体制の再構築やひとり親家庭等への支援に取り組む。<br><br>【会員数の推移】<br>会員数合計：1,433人（新規会員合計171人）<br>依頼会員登録者数855人（男性56人、女性799人）、7年度新規登録135人（男性6人、女性129人）。<br>援助会員登録者数535人（男性37人、女性498人）、7年度新規登録35人（男性4人、女性31人）。<br>両方会員登録者数43人（男性1人、女性42人）、7年度新規登録1人（男性0人、女性1人）。 | | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>就労形態の多様化や共働き家庭の増加等を踏まえ、仕事と家庭生活の両立を支援していくことで、男女がともにいきいきと社会参加できる環境づくりに寄与する。 | | | | | | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・会員数　1,300人<br>・援助会員確保にかかる講習会実施数　4回 | | | | | | |
| | | （参考）関連する数値目標<br>― | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 10,979 | 12,767 | 12,933 | 13,000 | 16,961 |
| 担当課 | 子ども育成課 | | | | |

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 配慮・工夫 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

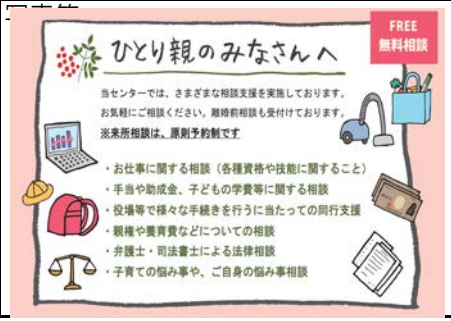
【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 3<br><br>家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | イ<br><br>育児・介護における多様なニーズに対応した支援の拡充 | No. 34 事業名：多様な保育サービスの充実<br><br>**◆事業（概要）**<br>・地域子育て支援センター事業（一般型）…子育て家庭への交流の場の提供と交流の促進、地域の子育て情報の提供や育児講座の実施、育児相談への対応等を行う。<br>・子育て相談事業…子育て相談、園庭開放等<br>・利用者支援事業…子ども・子育て相談支援員を配置し、きめ細やかな支援を行う。<br><br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>地域での人間関係の希薄化や、子育ての孤立化は深刻な状況であり、子育て不安は高まっている。こうした状況を改善するため、支援体制の充実を図る。親子を、また親同士を「つなぐ」という取組みが重要になってきており、地域ぐるみで子育てを進めていくことが大切であると考えている。<br><br>**◆活動指標（目標）**<br>・地域子育て支援センターの利用者数の維持又は増加を目指す。<br><br>**（参考）関連する数値目標**<br>待機児童数：0人 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・地域子育て支援センター事業では、施設ごとに毎月のおたよりの発信や、ホームページやInstagramを活用して事業の内容やセンターの雰囲気、育児講座の様子などを知ってもらい、来所しやすいようなPRの工夫をした。また、育児講座などの開催にあたっては、地域の人材を活用しながら、親子で楽しめる新しい内容を取り入れたりした。<br>・子ども・子育て相談支援員を配置し、教育・保育施設などを円滑に利用できるよう、情報提供や個別の相談対応を行った。<br><br>決算額（千円）<br>R3: 488,265 / R4: 41,583 / R5: 42,028 / R6: 47,432 / R7: 46,852<br><br>担当課：保育幼稚園課<br><br>写真等<br> <br>子育て支援センターおおつ・にじいろひろば | 自課評価<br>R3: C<br>R4: C<br>R5: B<br>R6: B<br>R7: B<br><br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br><br>**◆検証《達成状況、その要因》**<br>・地域子育て支援事業（一般型）保育所併設等8施設で実施し、延べ利用者数は25,804人であった。令和3年度（21,158人）、令和4年度（25,494人）、令和5年度（28,440人）、令和6年度（27,410人）と前年度より減少しているものの、少子化の影響で子どもの数が減っていることやニーズの地域差を考慮すると、一定の成果があったものと考えられる。<br>・待機児童は9名（令和7年4月現在）。令和6年4月現在は5名であった。<br><br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>・チラシやおたよりの配布、ホームページ・Instagramなどの活用により、子育て世帯に地域子育て支援センターの存在や事業内容を知ってもらえるよう情報提供を継続していく。育児講座については、地域の人材も活用しながら、親子で参加しやすく楽しめる新しい内容を取り入れていき、利用者の増加につなげたい。また、利用者同士が交流したり、気軽に相談ができるような雰囲気作りを心がけていきたい。<br>・利用者支援では、教育・保育施設や地域の子育て支援事業を円滑に利用できるよう情報提供を行い、利用にあたっての不安などに対し、丁寧に聞き取りを行うなど、きめ細やかな支援体制を継続していく。<br><br>**◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br><br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | イ | No. | 事業名 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>令和5年度から、地域の生活支援サービスの充実を図るため、地域包括支援センターに生活支援コーディネーターの専従配置を推進している。その結果、全体の9割のセンターで配置。生活支援コーディネーターが役割を的確に果たし、具体的な活動を展開できるよう、生活支援コーディネーター研修を企画・実施した。加えて、既存の会議体や地域のネットワークを活用し、地域課題について協議する場や機会を設け、住民と協働して課題解決に向けた仕組みづくりを進めている。本年度は、地域住民に市民が“できる力を取り戻す支援”と“地域の支え合い”について理解を深め、自分ごととして捉える機会とすることを目的に、「地域支え合いフォーラム」を開催した。また、第二層協議体としては，年間73回開催。 | 自課評価 | R3 | B | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>個別課題から地域課題の把握、さらに地域課題解決に向けた検討の仕組みづくりに取り組む。その過程で、地域に必要な社会資源について、既存の民間事業との協働や新規事業の創設を検討し、高齢者が住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるよう、生活支援サービスの充実を図っていく。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | 育児・介護における多様なニーズに対応した支援の拡充 | 35 | 生活支援サービスの充実 | | | R4 | C | |
| | | | | | | R5 | B | |
| | | | | | | R6 | B | |
| | | | | | | R7 | B | |
| | | **◆事業（概要）**<br>各種高齢者支援事業から見えてきた地域課題について、地域住民や関係機関と話し合う場（第2層協議体）を創設する。<br>住民主体の地域課題解決のための仕組みづくりを目指す。 | | | **◆検証《達成状況、その要因》**<br>生活支援コーディネーターの専従配置が進み、既存の会議体やネットワークを活用しながら、年間73回開催された地域課題を検討する会議等へ参加することができた。<br>これにより、地域課題の共有や解決に向けた検討が進み、地域によっては互助活動の活性化が見られた。しかし、生活支援サービスの充実という観点では，十分な成果には至っていない。<br>今後、生活支援体制整備事業をより効果的に活用するため、既存事業の見直しを進めるとともに、生活支援コーディネーター等を中心とした個別課題から地域全体の課題を把握し、解決に向けた取組に発展できるような仕組みを構築する必要がある。 | | |
| | | **◆男女共同参画の視点からの目的**<br>既存の地域の集いは、女性の参加者がほとんどであることから、男性でも参加できる、集いの場や地域の課題解決活動の創出を目指し、第2層協議体の活動を支援する。 | | 決算額（千円） | R3：291<br>R4：279<br>R5：589<br>R6：1,592<br>R7：2,551 | | | |
| | | | | 担当課 | 基幹型地域包括支援センター | | | |
| | | **◆活動指標（目標）**<br>第2層協議体の開催及び事業実施回数　252回（令和6～8年度の3年間累計回数） | | 写真等<br> <br>地域支え合いフォーラム | **◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | | **◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |
| | | **（参考）関連する数値目標**<br>社会資源「集いの場」状況：705以上 | | | | | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ウ | No. 36 事業名：高知市職員の技術職に占める女性の割合の向上 | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>・県内の工業系高校や大学に具体的な業務内容、勤務条件に福利厚生制度等を加えた職場の魅力を積極的に広報し、インターンシップ生として学生を受け入れた。また、仕事内容について具体的にイメージできるよう、採用ガイドブックに先輩職員の声を掲載した。<br>・ノー残業デー（毎週水曜日）の実施。夏季休暇取得時に計画的な年休取得を通知。<br>・人事考課、職員申告書、所属長からのヒアリング等をもとに、職員の状況を把握し配属先の配慮に務めた。<br>・仕事と育児・介護の両立のためのハンドブックを作成し、休暇等の周知に努めた。<br>・「職員の給与の男女の差異」をホームページ上で公表した。 | 自己評価：R3 B／R4 B／R5 B／R6 B／R7 B<br>評価基準：A：目標達成／B：概ね達成／C：少し下回った／D：大きく下回った<br>**◆検証《達成状況、その要因》**<br>○令和7年度実績<br>・技術職受験者に占める女性の割合：集計不可<br>※採用試験の際の性別回答は任意となったため、集計不可としている。<br>・技術職採用者に占める女性の割合： 17.6%<br>・インターンシップ生として受け入れることで、学生等が具体的に仕事の内容をイメージすることができた。<br>・制度等の周知により、職員が個々に必要な制度等の利用を検討することができた。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>住民の多様なニーズに対応するため、従来より女性職員の割合が低い技術職においては、女性の人材確保が特に重要である。<br>そのため、引き続き工業系高校や大学の学生をインターンシップ生として積極的に受け入れ、具体的な業務内容や福利厚生について情報提供を行っていく。<br>また、女性職員が仕事と家庭を両立し、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境づくりのための取組を継続して行っていく。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | 女性活躍の推進 | **◆事業（概要）**<br>女性職員が働きやすい職場環境の整備、高知市特定事業主行動計画に基づく技術系職員の女性の採用者数の拡大の取り組み等を実施し、高知市職員における技術職に占める女性の割合の向上を図る。<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>女性が能力を十分に発揮できる職場環境を形成し、多角的な視点で業務を推進することで、住民の多様なニーズに対応できる。<br>**◆活動指標（目標）**<br>インターンシップの受入れ、県内の高校・大学等での具体的な業務内容や福利厚生事業の説明等、採用後のイメージを持ちやすいような職場案内を積極的に行っていく。<br>**（参考）関連する数値目標**<br>高知市職員の技術職に占める女性の割合：15%以上 | 決算額（千円）：R3 0／R4 0／R5 0／R6 0／R7 0<br>担当課：職員厚生課<br>写真等 | **◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ウ | No. 37 ひとり親家庭等の相談及び就業自立支援 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>・来所電話相談の他、LINE相談を実施し、開設時間内に相談できない場合や、来所電話相談を希望しない相談者についても、個々の相談者に寄り添った支援を実施している。<br><br>・弁護士や司法書士の他、心理カウンセラー、キャリアコンサルタント、社会福祉士、ファイナンシャルプランナーの専門家相談を行い、様々な相談ができるようにしている。<br><br>・新たに公式インスタグラムを開始し、より多くの人にセンターの周知ができるよう努めている。 | 自課評価 R3 C / R4 B / R5 C / R6 C / R7 B<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br><br>◆検証《達成状況、その要因》<br>・令和7年度の相談件数は、1、718件（LINE相談398件を含む。）である。<br>・専門家相談を実施することにより、より専門的な相談内容に対応できており、相談者の不安解消に繋がっている。<br>・センター利用者の利用に関する満足度については、約92%であり、相談者に寄り添った対応が実施できている。<br>・ひとり親家庭支援センターにおける就職率50.0%（就職者13人／求職者26人） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>・広報誌への掲載や、関係機関や商業施設にチラシの設置を依頼するなど、引き続きセンターの周知に務める。<br>・来所電話相談の他、LINEやオンライン相談を実施。就業や子育て、生活全般に関する相談への対応、弁護士や社会福祉士等による専門相談等を実施し、母子父子支援プログラム策定（個々のケースに応じた自立目標や支援内容を設定し、目標達成後もアフターケアを実施）による支援等を生かしながら．相談者のニーズに応じたきめ細やかな支援を行う。<br>・公共職業安定所等、就業に関する機関との連携・関係情報の収集、技能習得のためのパソコン講座等を実施し、自立に向けた効果的な支援を行う。<br>・離婚前後家庭に関する相談支援（養育費確保、親子交流、離婚後の生活等）や、養育費確保等に関するセミナー等を実施し、必要な情報提供を行う。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | 女性活躍の推進 | ◆事業（概要）<br>ひとり親家庭の幅広い相談内容に対して必要な情報提供や助言等を行う相談業務を行う。 子育て給付課に母子・父子自立支援員2名を配置し開庁日は常時相談を受け付けている。<br>就業相談は、県と共同で「ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業」をNPO法人に委託し、就業情報の提供、就業のための各種資格や技能取得のための制度案内、保育所等に関する情報提供を実施している。ほかに、弁護士や司法書士の専門相談員による課題整理も行い自立を支援している。<br><br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>母子及び寡婦家庭に加え、父子家庭も含めたひとり親家庭全般に支援を行うとともに、離婚前段階の方に対しても、様々な不安を軽減することができるよう、各種相談や就業支援を行う。<br><br>◆活動指標（目標）<br>・ひとり親家庭支援センターにおける就職率が目標値の60%を超えるよう、効果的な就労支援を行う。<br><br>（参考）関連する数値目標<br>― | 決算額（千円） R3 5,300 / R4 6,154 / R5 8,573 / R6 7,516 / R7 7,318<br>担当課 子育て給付課<br><br>  <br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性 ・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性 ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性 ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>配慮・工夫 ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br><br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ウ | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>本事業では、セミナー・面談会・短期職場体験を通じて、「学ぶ・伸ばす・試す・つなぐ」プロセスを構築するよう工夫した。<br>資格取得支援やビジネスマナー講座を通じた基礎スキルの習得により「学ぶ」機会を提供し、段階的なカリキュラムや反復学習によって実践力を「伸ばす」構成とした。<br>さらに、模擬面接や短期職場体験を取り入れることで、実際の就業環境に近い形でスキルを「試す」機会を充実させた。<br>加えて、企業トークや人事担当者との模擬面接、合同企業面談会などを通じて企業との接点を増やし、求職者と企業双方の相互理解を深めることで、適切なマッチングにつなげる「つなぐ」仕組みを強化した。<br>また、求職者は高知市無料職業紹介所の登録につなげ、継続的な支援を行った。 | 自課評価 | R3 | B | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>令和8年度の各事業について、次のとおり対応することとする。<br><br>①地域雇用活性化推進事業<br>令和7年10月から令和9年度までの3年間について、国の委託事業である地域雇用活性化推進事業を再受託したため、資格取得支援等のセミナーや、合同企業面談会および短期職場体験、並びに事業所の販路拡大支援等を実施し、目標値の達成を図る。<br><br>②高知市無料職業紹介所<br>本事業と連携して進めている地域雇用活性化推進事業で実施したセミナー受講者に対し、直接面談による職業紹介を継続して実施するなど根気強くサポートを続けていく。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | 女性活躍の推進 | 38 | 雇用促進・就労支援 | | | R4 | C | |
| | | | | | | R5 | B | |
| | | | | | | R6 | B | |
| | | | | | | R7 | C | |
| | | ◆事業（概要）<br>地域雇用活性化推進事業による就職支援セミナー・面談会やシニア向けの再就職応援セミナー・面談会等を開催し、女性やシニア世代を含む求職者の就職につなげる。<br>また、セミナー等の受講後は、高知市無料職業紹介所に登録いただき、継続的な就職支援を行う。 | | | ◆検証《達成状況、その要因》<br>参加者数：　65人<br>就職者数：　66人<br>（内訳）<br>①地域雇用活性化推進事業<br>参加者数　65人（うち就職者数19人）<br>②高知市無料職業紹介所<br>就職者数　47人 | | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>女性やシニア世代を含むさまざまな年代層を対象としたセミナー等の実施により、性別や年齢にかかわらず、男女ともにいきいきと働ける社会の実現に寄与する。 | | | | | | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・雇用活性化推進事業による就職支援のセミナーの参加者数、セミナー受講後の就職者数（高知市無料職業紹介所による就職者を含む。）。<br>参加者：78人<br>就職者数：101人 | | 決算額（千円）<br>R3：14,978<br>R4：17,138<br>R5：10,181<br>R6：18,703<br>R7：13,837<br><br>担当課：産業政策課<br><br>写真等<br> <br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br><br>【課題等】 |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・雇用活性化推進事業による就職支援のセミナーの参加者数、セミナー受講後の就職者数（高知市無料職業紹介所による就職者を含む。）。<br>参加者：78人<br>就職者数：101人 | | | | | | |
| | | （参考）関連する数値目標<br>― | | | | | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ウ | No. 39 事業名：女性消防吏員増加に向けた取組み | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>・消防職員採用募集案内において、女性消防吏員をメインとしたポスターを作成し、女性消防吏員の活躍を広報した。<br>・採用説明会で女性消防吏員と男性消防吏員が共に活躍できる職場環境であることを周知し、女性でも安心して働くことのできる職場であることを広報した。<br>・高知県の女性消防吏員採用企画に参画し、消防職場に興味のある女性へ職場紹介を行うだけでなく、女性消防吏員が活躍する広報動画の撮影を行いSNSへの投稿に協力した。 | 自課評価：R3 B / R4 B / R5 B / R6 B / R7 B<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>消防職員採用試験の女性受験者を増加させるために、今年度の取組を継続的に実施していく。<br>また、女性消防吏員をメインとした広報資料の作成をしていく必要がある。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | 女性活躍の推進 | ◆事業（概要）<br>女性消防吏員の増加に向け、女性消防吏員を起用した広報に取り組むとともに、採用説明会等への現役の女性消防吏員の派遣により、その存在を印象付け、消防職員採用試験の女性受験者数増加を図る。<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>警察・自衛隊・海保など公安職の中では消防職が女性職員の比率が最も低いため、総務省消防庁から「消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進について（平成27年消防庁次長通知）」による女性消防吏員の活躍推進のための積極的な取組の要請があった。市としても、多様な視点・経験を有する職員による対応能力・市民サービスの向上につなげ、さらなる組織の活性化・強化のため、女性消防吏員の増加を目指すとともに、女性の職域拡大により、女性の活躍推進を図る。<br>◆活動指標（目標）<br>・消防局で実施するイベントや就職説明会、防災訓練等に女性吏員を積極的に派遣し、より多くの市民に女性消防吏員の存在を知ってもらう。<br>・女性消防吏員及びその働き方をアピールする内容の独自広報物・資料等を作成し、広報活動に利活用する。（総計200枚）<br>（参考）関連する数値目標<br>― | 決算額（千円）：R3 0 / R4 0 / R5 0 / R6 0 / R7 0<br>担当課：消防局総務課<br>写真等<br> <br> <br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ウ | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | 女性活躍の推進 | 40 | 女性のための就業支援事業 | ・就労支援パソコン講座<br>①超基礎Excel講座<br>実施日：7月5日　参加者：15名<br>②基礎Excel講座<br>実施日：7月6日　参加者：16名<br>③検定対策Excel講座<br>実施日：7月12日、13日<br>参加者：11名<br><br>・就労支援講座<br>「パッと華やぐ！<br>”似合う色”と”きちんと見える”コツ」<br>実施日：9月8日　参加者：19名 | | R4 | B | ・就労支援パソコン講座修了者の就業状況についてのアンケートを実施する。<br>・働く上で活用できるスキルの習得を目的とした就労支援講座を実施し、参加者の拡大を図る。<br>・効果的な広報を実施し、講座の周知を図る。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | B | |
| | | ・就労支援講座<br>職場で活用するさまざまなスキルを身に付ける講座を実施し、女性の就労を支援する。<br>ワード・エクセル超基礎講座<br>エクセル検定講座<br>その他就労支援講座 | | | | R6 | B | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | B | |
| | | 社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・就労支援講座<br>就労支援パソコン講座<br>実施回数3回　参加者数　各15名<br>・就労支援講座<br>実施回数1回　参加者数　20名 | | | パソコン講座は検定対策講座を設けることで、就労に活かしてもらえる実務的な内容となった。<br>また、就労支援講座では、パーソナルカラーの基礎を学ぶことで、見た目の印象をアップし、さらにビジネスシーンでの振る舞いを実践形式で学び、自信を持って前向きに挑戦するというモチベーションにつながった。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | ― | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 561 | 592 | 826 | 797 | 827 |
| 担当課 | ソーレ | | | | |

写真等（パソコン講座チラシ、就労支援講座の様子）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ア | No. 41 事業名 地域コミュニティ再構築事業 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | 地域活動における女性の参画の促進 | ◆事業（概要）<br>少子化・高齢化、また人口減少社会の到来などによって、将来的な住民自治活動の継続が懸念される中で、今後の地域コミュニティのあり方、協力信頼による住民自治の継続、市民と行政の協働のまちづくりの仕組みづくりを目指すもの。<br>なお、主な事業として、地域内での連携・協力によって地域課題の解決を目指す仕組みである「地域内連携協議会」の設立・運営に関する支援。当該協議会において、地域の将来を見据えた「新コミュニティ計画」の策定及び事業を実施するもの。 | 地域共生社会推進本部地域活動支援推進部会のネットワークを活かし、地域状況の把握に努め、地域内連携協議会未設立地域におけるまちづくりのキーパーソンへの接触を行った結果、R7年度には旭西部地区（旭小学校区）において、R8年度内の設立に向けた準備活動に繋がった。<br><br>【地域内連携協議会】地域内の団体が互いに連携・協力しあえる仕組みを構築している。<br><br>【新コミュニティ計画】地域主体の取組が多く盛り込まれ、地域の活動計画として役割を果たすものとなっている。<br><br>引き続き、女性の参画による多様な市民の意見を反映できるように、地域の状況に沿った支援を行っていく。 | R3 A<br>R4 C<br>R5 B<br>R6 C<br>R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | 【地域内連携協議会】地域内連携協議会の未設立地域である旭西部地区（旭小学校区）で設立する動きとなったため、関係団体に丁寧な説明を行い、円滑に設立できるよう努める。<br><br>【新コミュニティ計画】鏡地域及び潮江地域においてR8年度の策定を目指しており、R8年度には策定会議等を通じ、老若男女問わず、幅広い世代に参画を促し、多様な意見を計画に反映できるよう努める。<br><br>今後も地域内連携協議会及びコミュニティ計画推進市民会議の総会や定例会へ継続的に参加し、地域活動に積極的な若年層及び女性の人材の発掘等に努め、事業の承継や多様な視点での住民自治を推進する。 |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>住民自治活動や市民と行政の協働のまちづくりを進めるうえで、女性の参画により、多様な市民の意見を反映させることができる。 | ◆検証《達成状況、その要因》<br>【地域内連携協議会】のべ31地域（32小学校区）で認定。R7年度は一宮小学校区（代表は女性）で設立された。<br><br>【新コミュニティ計画】新たに潮江小学校区及び鏡小学校区で第1期計画策定に取り組んでいる。また、長浜小学校区及び浦戸小学校区で計画策定に向け地域団体との協議を開始した。 | | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>地域内連携協議会の認定（のべ数）：31地域(32小学校区) | 決算額（千円）<br>R3 5,044 / R4 7,448 / R5 10,279 / R6 11,011 / R7 11,171<br>担当課 地域コミュニティ推進課 | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性 ・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性 ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性 ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮 ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br><br>【課題等】 |
| | | ◆（参考）関連する数値目標<br>高知市における自治会長に占める女性の割合：25%以上 | 写真等 | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>スポーツ指導員認定更新講習会を計5回実施し、44名の方々に受講いただいた。<br>スポーツ指導における基礎から応用まで必須の内容をカリキュラムで組んだため、指導員としての活動を見直すきっかけになったと考える。講習実施回数を5回にすることにより、一回ごとの参加者数を増やし、講習における学びの活性化を図った。 | 自課評価 | R3 | D | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>多様なスポーツ指導員が活躍できるよう、交流と実践の場を拡大する。<br>定例の研修会やイベントへの参加促進を通じ、指導者間のネットワーク形成を支援していく。<br>性別にかかわらず能力を発揮できる土壌を育むことで、指導員の意識改革と本市のスポーツ振興の活性化を図る。 |
| 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | 地域活動における女性の参画の促進 | 42 | スポーツ指導者の育成 | | | R4 | C | |
| | | | | | | R5 | D | |
| | | | | | | R6 | D | |
| | | | | | | R7 | D | |
| | | ◆事業（概要）<br>地域スポーツの推進役として、地域でのスポーツ大会や教室等の企画運営などを行う高知市スポーツ指導員（令和3年度名称変更）の活性化を図るため、スポーツ指導員認定更新講習会を開催し、スポーツ指導者の育成を行う。 | | | ◆検証《達成状況、その要因》<br>更新講習を計5回実施し、受講者は対象者全体99名のうち44名と約4割と目標を下回った。<br>コロナ禍によりスポーツ指導員としての活動幅が減少し、指導員同士の交流が希薄化した影響が残っていることや、指導員の高齢化が主な要因であると考えられる。 | | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>スポーツ指導者における女性の参画を促進するとともに、生涯を通じた健康支援のため男女ともに、スポーツ活動に親しむことができるよう、生涯スポーツ社会の実現を目指す。 | | | | | | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>スポーツ指導員認定更新講習会を年10回実施予定。更新対象者全員の参加を目指す。 | | | ◆推進委員会の点検項目 | | | ◆推進委員会から点検コメント |
| | | (参考)関連する数値目標<br>高知市における自治会長に占める女性の割合：25%以上 | | | 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | | 【特に良かった点等】 |
| | | | | | 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | | |
| | | | | | 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | | 【課題等】 |
| | | | | | 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 346 | 218 | 361 | 296 | 311 |
| 担当課 | スポーツ振興課 | | | | |
| 写真等 | | | | | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ア | No. 43 事業名：消防団の充実強化 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | 地域活動における女性の参画の促進 | ◆事業（概要）<br>消防団員数を維持するとともに、地域の防災拠点としての機能を併せ持つ消防分団屯所の整備を図り、消防団が地域防災の中核的な役割を担えるよう、体制強化に取り組む。<br><br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>警察・自衛隊・海保など公安職の中では消防職が女性職員の比率が最も低いため、総務省消防庁から「消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進について（平成27年消防庁次長通知）」による女性消防吏員の活躍推進のための積極的な取組の要請があった。市としても、多様な視点・経験を<br><br>◆活動指標（目標）<br>活躍する女性消防団員の意見を伺いながら、消防団の活性化を図り、広報活動等に活かして女性消防団員の増加及び男女共同参画や地域防災活動の普及啓発を行う。<br><br>（参考）関連する数値目標<br>高知市における自治会長に占める女性の割合：25%以上 | 令和7年度も引き続き、女性のみで構成される高知市消防団団本部分団を中心に、積極的に他の自治体消防団と交流を図った。<br><br>団本部分団の取組として、夏季にオーテピア高知図書館で防災イベントを実施したほか、救命講習や防災講話を通じて、保育園や自主防災組織の訓練に積極的に参加することができた。 | R3 B<br>R4 B<br>R5 C<br>R6 B<br>R7 C<br><br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br><br>◆検証《達成状況、その要因》<br>新たな屯所建設に係る予算が計上されず、ハード面での体制強化（女性トイレ等）はされなかった。<br><br>団本部分団が、南国市消防団の女性団員と、お互いの取組について意見交換を行うことができ、非常に有意義であった。<br><br>団本部分団として、救命講習を6回、防災イベント1回、防火パトロール1回、防災講話1回など、地域防災力向上の取組に参画することができた。 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>令和8、9年度は、分団屯所建設の予算が計上されない見通しであるが、今後予算計上された際には、スムーズに工事を進められるよう調整を図る。<br><br>他の自治体消防団と意見交換会を実施し、得られた意見を自分達の活動に活かすことができている。今後は、現在行っている活動をより良くする必要がある。<br><br>救命講習、防災イベント及び防災講話を通じて地域防災力向上の取組に参画することができた。地域の多様なニーズに女性団員として何ができるか考え、実践していく必要がある。<br>（女性団員は70人在籍※R8.3.31時点） |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | － | 0 | 0 | 0 | 0 |

担当課：消防局総務課

写真等

◆推進委員会の点検項目

| | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | D | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | 地域活動における女性の参画の促進 | 44 | エンパワメント事業 | エンパワメント講座【オンデマンド配信】<br>男女共同参画の視点を持ちながら，女性が個々に持つ能力を十分発揮し、課題に対応できる能力を身につけることを目的とする講座を開催した。<br><br>内容：「私たち、この星でどう生きていく？<br>～女性の人生　傾向と対策～」<br>講師：瀧波ユカリ（漫画家、文筆家、エッセイスト、コメンテーター、ラジオパーソナリティ）<br>実施日：9月12日～9月25日<br>参加者：オンデマンド379名 | | R4 | A | 内容「女性の心をエンパワーし、体を守るための護身術ワークショップwen-do」<br><br>実施日：2月頃 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | ・エンパワメント講座<br>自己肯定感を高め、女性が自分らしく社会に参画するために必要なスキルを見につける。<br><br>※休眠預金活用事業（助成金）により実施（R4～R6） | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | | 評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・エンパワメント講座　参加者数30名 | | | ジェンダー視点での思考と、自分の中の思いを言語化することの意義について気づく機会となった。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 高知市における自治会長に占める女性の割合：25%以上 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 290 | 191 | 26 | 311 | 100 |
| 担当課 | ソーレ | | | | |

写真等（講座チラシ）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>・地域における防災イベント等で、啓発物品の配布を行った。 | 自己評価 | R3 | | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>・今後も作成した啓発物等を活用し、啓発を継続していく。<br>・防災分野と連携し、効果的な啓発方法を検討していく。 |
| 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう | ワーク・ライフ・バランスの推進 | 45 | 防災分野におけるジェンダー平等の啓発 | | | R4 | | |
| | | ◆事業（概要）<br>防災分野におけるジェンダー平等の啓発を実施する。 | | | | R5 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点<br>ジェンダー平等の視点を取り入れた防災の取組を行うことで地域の防災力向上につなげる。 | | | | R6 | A | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・防災分野におけるジェンダー平等に関する情報発信を行う。<br>・高知市総合防災訓練に参加する。 | | | | R7 | C | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | | | 決算額（千円）<br>R3：／　R4：／　R5：105　R6：73　R7：0<br>担当課：人権同和・男女共同参画課 | ◆検証《達成状況、その要因》<br>・高知市総合防災訓練が実施されなかったため、R7年度は参加できなかった。 | | | |
| | | | | 写真等<br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | イ | No. 46 事業名 避難所運営体制の整備 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>・各施設の避難所運営マニュアルのベースとなるテンプレートに、避難所運営体制を確立する際は多様な視点が運営に反映されるよう、女性もメンバーに入ってもらうことを明記し、どの施設の避難所運営マニュアルにも男女共同参画の視点が盛り込まれるようにした。<br>・マニュアル作成の際には、広域避難を検討している自主防災組織と意見交換を行い、実際に市民がマニュアルに沿って避難所を運営できるものとなるよう配慮した。 | 自課評価<br>R3 B<br>R4 A<br>R5 B<br>R6 A<br>R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>◆検証《達成状況、その要因》<br>・令和7年度に作成を予定していた施設のマニュアル作成は完了した。（令和7年度目標1施設、実績：2施設） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>・マニュアルへは、避難所運営について、女性に限らず障がい者等、多様な視点が運営に反映されるよう記載している。また、マニュアル検討会や訓練時には、性別や身体の特性によって限られた役割をあてることのないよう、男性のみならず、女性や若い世代等、多様な意見を反映できるよう取り組んでいる。<br>今後も、マニュアルを用いた避難所開設・運営訓練を実施することでマニュアルの効果を検証し、必要に応じて作成・改訂を行う。 |
| 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | 防災分野における女性の参画の促進 | ◆事業（概要）<br>大規模災害発生時に避難者が避難所を自主運営できるよう、避難所ごとに「避難所運営マニュアル」を作成する。<br>また、マニュアルを用いた避難所開設・運営訓練を実施し、マニュアルの効果検証を行う。<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>・避難所の運営マニュアル作成時に男女共同参画の視点を導入する。<br>・避難所開設訓練で男女共同参画の視点を導入する。<br>◆活動指標（目標）<br>広域避難をする際に使用する避難所として指定している仁淀川町の2施設のうち、仁淀川町が避難所に指定していない1施設について、男女共同参画の視点を導入した避難所運営マニュアルを作成する。<br>（参考）関連する数値目標<br>― | 決算額（千円）<br>R3 419<br>R4 1,513<br>R5 899<br>R6 884<br>R7 5<br>担当課 地域防災推進課<br>写真等<br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性 ・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性 ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性 ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮 ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | イ | No. 47 事業名 れんけいこうち防災人づくり塾 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>令和7年度は、地震や事前復興、ペット避難、男女共同参画を始めとする多様性の視点などについて取り上げた。<br>令和7年度は高知市会場の定員を180人として、5月7日から5月23日の間で募集を行い、募集開始早々に定員に達したため受付終了した。<br>サテライト会場については、各会場において、高知市会場の講義を録画したDVDを上映した。<br>聴覚障害を持つ受講生に対して、手話通訳を派遣するなどの対応を行った。また、託児希望の受講生に対して、シッターを派遣するなどの対応を行った。 | 自課評価<br>R3 A<br>R4 A<br>R5 A<br>R6 A<br>R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>◆検証《達成状況、その要因》<br>令和7年度れんけいこうち防災人づくり塾修了者数（高知市会場のみ）：158人<br>内訳：男性71人（約44.9%）、女性87人（約55.1%）<br>※10代から80代までの幅広い年齢層の方が修了した。<br>防災士認定登録者数に占める女性の割合：37.7%（R7） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>令和8年度れんけいこうち防災人づくり塾は、2時間の講習を全6回を実施し、実践的な技能の習得を追加し、専門性の高い県外講師から自主防災組織の会長など、「地域コミュニティを担う実践者」にコストのウエイトを移すことで、地域でも活躍してもらう両立を図る。<br>サテライト会場の運営に関しては、令和8年度からは、YouTubeに講義の動画をアップに変更する。<br>また、引き続き託児サービス、手話サービス等行うなど、幅広い住民に参加してもらうための運営の検討を行うとともに、防災における男女共同参画の視点に関する講座を行い、啓発していく。 |
| 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | 防災分野における女性の参画の促進 | ◆事業（概要）<br>地震や風水害などの大規模災害に備えて、地域で防災活動に取り組む防災リーダーの育成を目的に、地域の方々に、防災に関する様々な知識を身につけてもらうため、各専門分野の講師による全8回の講座「れんけいこうち防災人づくり塾」を実施する。<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>事業の実施により、年齢・性別を問わず幅広い住民が交流を深め、地域で連携し、地域の防災力向上を図る。<br>◆活動指標（目標）<br>・れんけいこうち防災人づくり塾　令和7年度　全8回開催<br>・受講者に、防災における男女共同参画の視点の啓発を行う。<br>（参考）関連する数値目標<br>防災士認定登録者に占める女性の割合：50%以上 | 決算額（千円）<br>R3 5,150<br>R4 6,828<br>R5 1,381<br>R6 2,338<br>R7 2,019<br>担当課：防災政策課<br>写真等<br> | ◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | イ | No. 48 事業名：人材育成事業（女性防災プロジェクト） | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう | 防災分野における女性の参画の促進 | ◆事業（概要）<br>・女性防災プロジェクト<br>（1）女性防災リーダー養成推進講座<br>（2）地域活動推進（修了生支援等）<br>（3）女性防災ミーティング | （1）女性防災リーダー養成推進講座<br>参加者が「受講して終わり」ではなく，自分で考える力を養い，学んだことを地域活動へ還元する女性リーダーの育成を目的とした講座を開催した。<br>①第1回目：4月13日　参加者：30名<br>②第2回目：5月18日　参加者：28名<br>③フィールドワーク：6月15日　参加者：26名<br>④第3回目：7月13日　参加者：27名<br>⑤第4回目：8月24日　参加者：25名<br>（2）地域活動推進<br>・防災減災アクションプラン　18件<br>参加者：延べ890名<br>（3）女性防災ミーティング2026<br>実施日：1月24日<br>参加者：第一部65名、第二部30名<br><br>※一部、フェリシモ基金を活用 | R3 A<br>R4 A<br>R5 A<br>R6 A<br>R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | ・女性防災プロジェクト：高知市で連続講座（5回）を実施，うち1回はフィールドワークを行う。<br>・講座修了生の地域活動に対する継続的な支援<br>・「女性防災リーダー地域活動推進事業」実施による資金面での支援。<br>・女性防災ミーティング：修了生同士の交流の場を設け、スキルアップを図る。 |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | ◆検証《達成状況、その要因》<br>・女性防災プロジェクト：講座修了生26名をこうち女性防災リーダー「JBL」として登録。<br>・地域において実施されたアクションプランでは「いざという時に動ける」という実践的な学びの機会となった。<br>・女性防災ミーティング：プロジェクトを修了した女性リーダーたちのスキルの向上と参加者同士のネットワークの強化につながった。 | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・女性防災リーダー養成推進講座の実施による修了生の育成（30人）<br>・修了生による情報発信及び交流活動の実施<br>・修了生への地域活動に向けた支援の実施 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標<br>防災士認定登録者に占める女性の割合：50%以上 | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 16 | 553 | 5,539 | 7,634 | 1,758 |
| 担当課 | ソーレ | | | | |

写真等（左：講座第4回目、右：ミーティング）

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ア | No. 49 さまざまな世代やライフスタイルに応じた健康づくりのための講座等の開催 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自己評価 R3 B / R4 C / R5 C / R6 B / R7 C | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | ◆事業（概要）<br>・いきいき百歳体操、かみかみ百歳体操、しゃきしゃき百歳体操の実施<br>・低栄養予防（栄養改善活動）事業の実施<br>・いきいき百歳サポーター育成教室の実施<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>介護予防活動への住民参画を促進することで、より活動的な生活となり、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができるようになる。<br>既存のいきいき百歳体操等の集いに、体操会場の人間関係を通じ、男性の参加を促す。<br>◆活動指標（目標）<br>・いきいき百歳体操参加者数9,000人/年<br>・いきいき百歳サポーター新規育成数80人/年<br>・いきいき百歳体操等会場における低栄養予防啓発活動の実施箇所割合　25会場/年以上、食品摂取の多様性得点7点以上の人の割合　60%以上<br>（参考）関連する数値目標<br>健康寿命（65歳の平均自立期間）：男性18.90年　女性22.89年 | お世話役や参加者の高齢化により、活動が低迷している体操会場もみられており、こうした課題に対して、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターや市社会福祉協議会（市社協）のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）などが連携し、体操会場の継続支援や新規立ち上げ支援に取り組んでいる。また、市民が地域のどこで体操が行われているか分かりやすいように、のぼり旗を製作し、希望する会場から順次配布している。<br>体操参加者の高齢化に伴い、虚弱な方や認知症の方の参加も増えており、これを受け、サポーターのフォローアップ研修では、認知症サポーター養成講座やフレイル予防についての講義も内容に加えるなど工夫している。さらに、NPO法人いきいき百歳応援団と連携し、課題や取組状況の把握を目的として体操会場の訪問調査を行っているほか、年2回『いきいき百歳新聞』を発行し、情報発信にも努めている。<br>決算額（千円）：R3 31,638 / R4 28,845 / R5 28,060 / R6 35,571 / R7 35,991<br>担当課：基幹型地域包括支援センター<br>写真等<br> <br>サポーター育成教室 | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>◆検証《達成状況、その要因》<br>令和7年度末で、いきいき百歳体操会場355会場，かみかみ百歳体操会場338会場、しゃきしゃき百歳体操会場257会場となっている。新型コロナウイルス感染拡大以降、廃止会場が新規会場を上回っていたが、新規会場が増加してきている。いきいき百歳体操参加者数：6,331人（R7.7.1調査時）<br>住民主体の活動として継続できる支援を強化するため、インストラクター派遣や住民ボランティアの育成にも取り組んでいる。<br>住民ボランティアであるきいき百歳体操サポーターを令和7年度57人を養成，延べ1,696人（R8.3末）となっている。<br>◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | いきいき百歳体操は、住民主体の介護予防活動として20年以上継続しており、お世話役や参加者の高齢化が進んでいる。これから先も高齢者の介護予防を目的に高知市発祥のいきいき百歳体操体操を継続することができるよう、引き続き、地域包括支援センターに専従配置された生活支援コーディネーターと市社協のCSWが協働しながら伴走支援するとともに、いきいき百歳体操を幅広い年代の方に知ってもらうよう情報発信していく。<br>◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | 50 | 生涯学習活動の促進 | ・中央公民館事業は、年齢・男女問わず市民のニーズに合わせた講座を提供し、市民が積極的に生涯学習に参加できるよう工夫した。<br>・未来の公民館利用者を育成する目的で、「夏休みこども体験教室」を新設し、こどもたちに中央公民館をより身近に感じてもらうきっかけづくりに励んだ。<br><br>・地域の公民館では、住民のニーズや地域の実情に即した内容の講座を企画・立案し、地域の課題解決につなげるとともに、特に健康増進の分野では、従来の体操教室に加え、シナプソロジーや笑いを取り入れた脳トレなど、心身の活性化を図る多様なプログラムを展開した。 | | R4 | B | ・中央公民館では、引き続き、年齢・男女問わず、参加意欲を刺激し、生涯学習の機会を増やすような魅力的な講座を実施していく。<br>・令和7年度に新設した「夏休みこども体験教室」は、講座数を増やして、男女問わず未来の公民館利用者を育てることに注力する。<br><br>・地域の公民館では、今後も社会情勢や住民の興味・関心に即した多様な講座を展開し、学びを通じた受講者同士の交流を深めながら自発的な活動へとつながる生涯学習の機会を提供する。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | B | |
| | | 市立公民館で年間を通じて各種講座を開設し、広く市民に生涯学習の機会を提供する。 | | | | R6 | B | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | B | |
| | | 性別・年齢を問わず、生きがいづくりと健康増進、また受講生同士の交流の場となるような講座を実施する。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・中央公民館各種講座等受講者数（3,500人）<br>・地域の市立公民館事業参加者数（6,000人） | | | ●中央公民館各種講座等受講者数3,027人<br>・受講数は微増ではあるが、順調に増加している。<br>・女性参加率は相変わらず高いが、男性の受講率は女性のそれと比較すると低調のまま推移している。<br>・「夏休みこども体験教室」は定員の10倍を超える応募があり、好評を博した。<br>●地域の市立公民館事業参加者数7,050人<br>・地域の市立公民館で実施した受講後のアンケート調査で、生涯学習の中で身に付けた知識や技術を活かそうとしている人の割合は、R7年度は97.7%と高い数値を維持している。<br>（参考：R6年度　98.1%） | | | |
| | | ◆（参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | ・健康寿命（65歳の平均自立期間）：男性18.90年、女性22.89年 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | － | － | － | － | － |
| 担当課 | 文化振興課 | | | | |

夏休みこども体験教室

脳が喜ぶ健康講座

| ◆推進委員会の点検項目 | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 配慮工夫・ | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

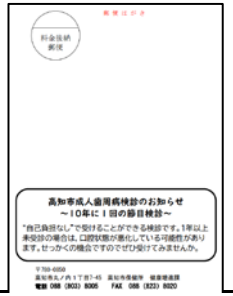
| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | ア あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | No. 51 事業名 スポーツ推進事業<br>**◆事業（概要）**<br>小学校区ごとに設置の地区体育会で開催される地区運動会や各種スポーツイベント等が実施されるよう地区体育会への活動支援を実施し、男女ともに年齢を問わずスポーツに触れる機会の提供を図る。<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>生涯を通じた健康支援のため男女ともに、スポーツ活動に親しむことができるよう、生涯スポーツ社会の実現を目指す。<br>**◆活動指標（目標）**<br>地区体育会での地区運動会の開催<br>各種スポーツイベントの実施<br>**（参考）関連する数値目標**<br>健康寿命（65歳の平均自立期間）：男性18.90年　女性22.89年（全国平均） | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>体育会による運動会の実施を支援したほか、「高知県健康パスポート」との連携を推進し、運動習慣のない層への動機付けを行った。<br>また、補助金制度の積極的な活用を促すとともに、各種スポーツイベントへの支援を通じて開催地区の拡大を図った。<br>決算額（千円）：R3 346 / R4 1,381 / R5 1,573 / R6 1,573 / R7 1,573<br>担当課：スポーツ振興課<br>写真等 | 自課評価：R3 D / R4 C / R5 C / R6 C / R7 C<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>**◆検証《達成状況、その要因》**<br>地域における少子高齢化の影響により、一部の町内会で参加が困難になるなどの課題が見られるものの、健康パスポートとの連携等が奏功し、全体の参加者数は微増傾向にある。<br>一方で、運営側（地区体育会役員等）や参加種目における男女比の偏りなど、男女共同参画の視点に立った詳細な実態把握はできていないため依然として課題が残る。<br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>高知市体育会から地区運動会への補助単価を引き上げるなど、地域コミュニティの運営基盤の強化を図る。今後は、多様な世代がより参加しやすい種目設定や、運営体制の多様化を働きかけ、より幅広い層の参加促進を図りたい。<br>**◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

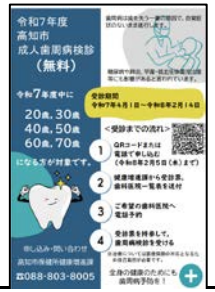
| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ア | No. 52　事業名：がん検診 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>○4月：年度末年齢42～45歳の方のうち前年度に受診していない方と、46～63歳の方のうち過去5年間に高知市実施の検診の受診履歴のある方で前年度に受診していない方へ、乳がん検診・子宮頸がん検診個別受診券と集団案内を送付。<br>○6月：乳がん検診は年度末年齢41歳、子宮頸がん検診は年度末年齢21歳の方へ、無料クーポン券付受診券を送付。<br>○7月：女性健診受診のオンライン申込み開始。広報あかるいまち7月号で女性健診の実施と申込み方法（オンライン）についての記事を掲載。<br>○11月：年度末年齢20歳～39歳の方のうち平成31年度～令和5年度に子宮頸がん検診の受診歴があるが、令和6年度及び令和7年度に未受診の方へ子宮頸がん受診勧奨はがきを送付。<br>○12月：高知市のがん検診を未受診の方がいる世帯へ受診案内はがきを送付。（40歳～69歳の未受診の方がいる世帯）<br>○2月：次年度の集団検診申込書を送付。<br>○2月～3月：次年度に発送する乳がん検診・子宮頸がん検診個別受診券送付用封筒等の作成 | 自課評価：R3 B / R4 A / R5 B / R6 B / R7 B<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>利用率が低い乳がん子宮頸がん無料クーポン券について、検診の必要性や受診方法が分かりやすく伝わるように改善する。<br>若年層の受診率向上のために、オンライン申し込みを継続し、高知市公式LINEや市広報あかるいまちを活用し、オンライン申込みの周知を図る。 |
| 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | ◆事業（概要）<br>胃がん検診、大腸がん検診、胸部検診（以上、40歳以上の市民対象）、子宮頸がん（20歳以上の女性市民対象）、乳がん検診（40歳以上の女性市民対象）を実施する。実施にあたっては、利便性向上を図るとともに対象者への受診勧奨を行う。<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>市民の誰もが生涯にわたり社会参加し続けられるように、がんの早期発見のための検診機会を確保する。<br>◆活動指標（目標）<br>・子宮頸がん検診受診率　17%以上<br>・乳がん検診受診率　20%以上<br>（参考）関連する数値目標<br>子宮頸がん検診受診率：20%以上<br>乳がん検診受診率：22%以上 | 決算額（千円）：R3 89,162 / R4 89,646 / R5 93,845 / R6 95,027 / R7 93,763<br>担当課：健康増進課<br>写真等<br>乳がん検診・子宮頸がん検診個別受診券の送付用封筒<br> <br> | ◆検証《達成状況、その要因》<br>・子宮頸がん検診：16.3%<br>・乳がん検診：19.1%<br>女性健診については、定員を増やして募集したため、受診者数が前年度比約8%増となった。女性健診では子宮頸がん検診も受診できるため、子宮頸がん検診全体の受診率は下がったものの、女性健診時に受診できる機会を増やすことができた。<br>令和8年4月に発送する乳がん検診・子宮頸がん検診個別受診券の送付用封筒について、検診の案内であることが目立つようなデザインに変更して作成した。<br>◆推進委員会の点検項目<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | B | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | 53 | 成人歯周病検診 | ・対象年齢に20・30歳を追加し，20・30・40・50・60・70歳の節目年齢を対象として実施。<br>・高知市近隣の市町村でも受診できるよう県内統一広域での個別歯科医療機関委託で実施。<br>・4・5月に対象者へ個別に案内ハガキで通知。申込みの利便性を図るため，申込用のQRコードを掲載。<br>・ホームページ上のWeb受付と，Webを利用しない方のために従来の電話での申込も併用。<br>・各種保健事業でのPR。<br>・若い世代へは大学での周知を依頼。<br>・広報あかるいまちで啓発記事（6月・11月・2月）を掲載。<br>・申込者が受診に結び付くように，受診票を送付する際に同封するチラシはナッジ理論を活用。 | | R4 | A | ・20・30歳、40・50歳、60・70歳と3区分に分けて、周知ハガキを作成。年齢に応じて歯周病と全身の関係や歯科受診につながるように啓発内容を工夫し、受診率の向上を目指す。<br>・WEB申込を継続し、広報あかるいまちや公式LINEの通知などを活用した周知を図る。 |
| | | ◆事業（概要）<br>かかりつけ歯科医を持つ割合が少ない20、30、40、50、60、70歳（年度末年齢）の節目年齢の市民を対象に、歯周病検診を委託歯科医療機関における個別検診により実施する。 | | | | R5 | B | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的<br>市民の誰もが生涯にわたり社会参加し続けられるように、生活習慣病などの全身疾患に関連する歯周病を早期に発見し、歯科受診のきっかけづくりとして、成人歯周病検診を実施する。 | | | | R6 | B | |
| | | ◆活動指標（目標）<br>・受診者数　1,200人 | | | | R7 | A | |
| | | （参考）関連する数値目標<br>健康寿命（65歳の平均自立期間）：男性18.90年　女性22.89年 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | | | | ◆検証《達成状況、その要因》<br>・申込2,036人、受診者1,236人と目標を超える受診者数であった。<br>・追加した20・30歳は受診者が少ないと想定していたが、30歳の申込が最も多く、20歳も夏季休暇等の長期休暇を利用した受診があった。<br>・Web申込については、年齢ごとに申込フォームを作成し、より申込の利便性が向上した。 | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 2,274 | 2,672 | 4,211 | 4,996 | 7,816 |
| 担当課 | 健康増進課 | | | | |

写真等




| ◆推進委員会の点検項目 | | ◆推進委員会から点検コメント |
|---|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | 【特に良かった点等】 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | 【課題等】 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | 54 | こころの相談窓口 | ・精神保健福祉相談は、専用の相談電話（2回線）で主に受付し、来所を希望する方及び職員が訪問が必要と判断した時には来所や訪問での相談にも対応した。<br>・パソコンやスマートフォンから簡単にストレス度や落ち込み度などの心の状態がチェックでき、相談窓口が表示されるシステム「こころの体温計」を高知市ホームページからアクセスできるようにするとともに、名刺サイズのカードにQRコードを載せ配布することで、周知した。<br>・高知市公式LINEで相談窓口、こころの体温計へのアクセスを呼びかけた。 | | R4 | A | ・引き続き高知市ホームページ、高知市公式LINEなどを活用し、アクセスしやすい相談の場となるよう、広報を行う。<br>・市民のこころの健康が保たれるよう相談対応の質を向上していく。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | 市民の誰もがこころの健康について相談できる場として、仕事や生活に不安を感じている方などの相談に対応する。 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 市民の誰もが生涯にわたり社会参加し続けられるように、相談対応を通してこころの健康を保つための支援を行う。 | | | 評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満） | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | 精神保健福祉相談　延べ2,800件 | | | ・精神保健福祉相談（訪問・来所・電話）の延べ件数　6,278件。<br>・こころの体温計へのアクセス数　30,819回。<br><br>パソコンやスマートフォン、LINE等の活用により、相談窓口を効果的に周知できていると思われる。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 健康寿命（65歳の平均自立期間）：男性18.90年　女性22.89年 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 250 | 262 | 266 | 267 | 281 |
| 担当課 | 健康増進課 | | | | |

写真等

| ◆推進委員会の点検項目 | | ◆推進委員会から点検コメント |
|---|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 | 【特に良かった点等】 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 | |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 | 【課題等】 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5<br>生涯にわたる健康生活を充実させましょう | ア<br>あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | No. 55 事業名：思春期保健事業<br>**◆事業（概要）**<br>・養護教諭の定例会等での啓発を行う。<br>【思春期教室】<br>学校で性教育を実施できるように、対象者や授業の内容に合ったサポート、資料教材の提供、物品の貸出しを行う。開催：学校からの依頼<br>**◆男女共同参画の視点からの目的**<br>・生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重し、相手を思いやり良好な人間関係を構築した上で性関係をもつために適切な行動を取ることができるよう、男女共に生命の誕生やいのちについて伝えていく。<br>・将来男女が協力して育児を行うことができるよう、育児に関する実技も男女ともに実施する。<br>・プレコンセプションケアの考えに基づき、思春期から将来のライフプランを考えて日々の生活や健康と向き合うことができるように幅広い関係機関と連携した啓発を行っていく。<br>**◆活動指標（目標）**<br>・命を大切にする心や、男女がそれぞれの体の特徴や違いを理解し尊重し合う心を育てるための取り組みを行う。<br>・養護教諭定例会での啓発を行う。（年1回）<br>・学校等の依頼により、思春期教室の開催や物品等の貸し出しを行う。<br>・プレコンセプションケアの取り組みを検討するための庁内情報共有会の継続<br>**（参考）関連する数値目標**<br>― | **◆具体的取組《工夫や配慮した点等》**<br>①性教育関連物品貸出：13か所延べ22回（小学校5校延べ7回、中学校2校延べ7回、高等学校2校延べ2回、その他関係機関4カ所延べ6回）<br>②いのちの教室専門職サポート：保健師3回・栄養士1回・助産師11回　自らも大切に育てられてきたことを実感してもらえるよう、沐浴・おむつ替え等協力して行うことの大切さを伝えた。<br>③養護教諭への周知啓発：高知市立学校養護教諭研修にて事業目的、貸し出しについて説明。<br>④庁内思春期保健情報交換会の開催：2回（参加機関：学校教育課・健康増進課・地域保健課・高知県子育て支援課）プレコンセプションケア概念や国、県の動きを共有。各課の現状について情報交換を行い、課題について意見交換、目指す姿について共通認識を持ち顔の見える関係づくりを行った。<br>決算額（千円）：R3 0 / R4 0 / R5 0 / R6 0 / R7 0<br>担当課：母子保健課<br>写真等　いのちの教室の様子<br> | 自課評価：R3 B / R4 B / R5 B / R6 B / R7 A<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>**◆検証《達成状況、その要因》**<br>助産師講義のための物品貸出やいのちの教室等への保健師等サポートは例年と同等の回数である。養護教諭や学級担任と打合せを行い、各学校の実情に応じ、生命の大切さや男女が協力し、赤ちゃんのお世話していくことも伝えることができた。庁内情報交換会で、県の動きや市町村の役割についても共有し、来年度も継続する合意を得た。会を通じて、令和8年度の養護教諭研修会での思春期保健やプレコンセプションケアの重要性について啓発する時間をいただくことができた。<br>**◆推進委員会の点検項目**<br>必要性：・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性：・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性：・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮：・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | **◆対応《改善、今後どのようにするか》**<br>高知県の10代の妊娠中絶率は全国平均より大幅に高かったことから、当事業を行ってきた経過があるが、令和5年度には全国平均を下回る結果となった。しかし、本市では低出生体重児の出生率が全国と比べて高い水準で経過し、リスク要因としては早産、高齢出産、生活習慣、適正体重（痩せ・肥満）が該当している。現在までの性教育とあわせて、妊娠前から「低栄養・痩せ・妊娠適齢期・健康な体づくり」を学べるよう、庁内情報交換会等で他課とも連携しライフステージに応じた啓発を検討していく。<br>**◆推進委員会から点検コメント**<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | Do（実施） | Check（点検） | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5<br>生涯にわたる健康生活を充実させましょう | ア<br>あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | No. 56　事業名：妊娠・出産期等の支援 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>相談先として認知しやすいよう、「子育て世代包括支援センター」から「親子サポートステーション」に名称変更（令和7年度）。母子手帳交付面談は事前予約システム（令和7年度導入）を活用し医療機関へ周知を行った。母子健康手帳交付時に一人ひとりに応じたサービス利用や相談先の周知が行えるよう、支援プランを改定した。妊婦や子育て家庭を地域の社会資源につなぐなど、地域の実情に応じたセンター展開が行えるよう、民生委員・児童委員や主任児童委員との連携や、保健師や赤ちゃん訪問員を対象とした地域福祉コーディネーター（高知市社会福祉協議会所属）との意見交換会を開催した。 | 自課評価：R3 A／R4 B／R5 B／R6 A／R7 B<br>評価基準<br>A：目標達成（100%以上）<br>B：概ね達成（80～100%未満）<br>C：少し下回った（60～80%未満）<br>D：大きく下回った（60%未満）<br>◆検証《達成状況、その要因》<br>・母子手帳交付時の窓口面談率100%　一人ひとりの妊婦に応じた支援プランの提供を行い子育てサービスや相談先の情報提供を行っている。<br>・パパママ教室参加組数187組（同行者：主に夫やパートナー187組）と当日欠席があり200組は未達成だが、参加された夫やパートナーの妊婦体験を実施。申し込み多数の場合は高知県助産師会との連携し助産師会主催のものや、地域子育て支援センターでの教室、各親子サポートステーションの個別対応等を実施。<br>・低出生体重児出生率：　R6年数値は令和8年9月に確定予定 | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>事業や相談先、サービスの変更により随時支援プランを見直していく。また、より妊婦の状況に応じた対応ができよう母子健康手帳交付時のアンケートを見直す。事業や各時期に役立つ情報は、母子モアプリでの情報発信を行う。赤ちゃん誕生おめでとう訪問が家庭と地域社会をつなぐ機会にできるよう、地域福祉コーディネーターとの意見交換を継続し、子育て家庭の孤立化を防ぐ。 |

◆事業（概要）

・妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援の第一歩として、親子サポートステーション（R7度より子育て世代包括支援センターから名称変更）に母子保健コーディネーターを配置し、母子健康手帳交付時の窓口面接、相談支援、医療機関との連絡調整を行うとともに必要な支援につなげる。
・妊娠期の間に出産・産後・子育てに関する知識・技術を習得し、子育てがイメージできるよう妊婦の他にもパートナーや家族と一緒に参加できる「パパママ教室」を各親子サポートステーションにおいて開催する。
・妊婦や子育て中の保護者が一人で悩まず気軽に相談できる機会として「妊産婦育児相談（R8度より妊産婦育児相談はぐくみから名称変更）」を開催する。
・生後4ヵ月までの乳児のいる全ての子育て家庭を訪問し、家庭と地域社会をつなぐ最初の機会とすることにより、子育て家庭の孤立化を防ぎ、乳児の健全な育成環境の確保を図る。

◆男女共同参画の視点からの目的

妊娠期から継続して、出産・子育て期へと切れ目ない支援につなげていくために、必要な情報提供や支援を行う。
教室開催により、出産・子育てにおいて父親や家族のサポートが重要であることの啓発を行うとともに、具体的な実技等を含めた学習の機会を提供する。

◆活動指標（目標）

・妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援として、親子サポートステーションにおいて、母子健康手帳交付時の妊婦の窓口面接率100%。
・妊娠期に出産・産後・子育てに関する知識、技術が習得の機会の提供。地域における子育てサービスや相談先の情報提供。
・パパママ教室参加組数　200組

（参考）関連する数値目標

低出生体重児出生率：　←9月にR6の分が出る人口動態より（地域保健課）

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1,815 | 1,798 | 3,437 | 3,518 | 3,585 |
| 担当課 | 母子保健課 | | | | |

写真等

◆推進委員会の点検項目

| | |
|---|---|
| 必要性 | ・事業がプランの数値目標に結びつくか。 |
| 効率性 | ・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。 |
| 有効性 | ・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。 |
| 工夫・配慮 | ・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 |

◆推進委員会から点検コメント

【特に良かった点等】

【課題等】

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan(計画) | Do(実施) | Check(点検) | Action(見直し) |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ア | No. 57 事業名 幼児健診 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》<br>・健診受診率の向上及び父親の子育て参加の機会促進のため、日曜健診の実施は継続(1歳6ヶ月児　3回、3歳児　3回)して行い、一定期間の未受診者に対しては子育て支援訪問員や保健師が手紙や訪問により受診勧奨を継続して実施した。<br>・1歳6か月健診では、R4年度より子ども育成課と連携し実施している親子絵本ふれあい事業を継続して行い、絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通して、子どもの成長発達を促す啓発を行っている。 | 自課評価 R3 B / R4 B / R5 B / R6 B / R7 B<br>評価基準<br>A:目標達成(100%以上)<br>B:概ね達成(80～100%未満)<br>C:少し下回った(60～80%未満)<br>D:大きく下回った(60%未満) | ◆対応《改善、今後どのようにするか》<br>・健診受診率向上のため、日曜健診の実施と未受診者に対する手紙や訪問等による受診勧奨を継続して実施する<br>・健診受診日の変更や日曜健診の申込についても保護者の都合の良い時間に変更の申込ができるよう、電子申請等を活用する |
| 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | ◆事業(概要)<br>母子保健法に基づく健康診査として、幼児の成長発達の確認及び子育ての助言を行うため、1歳6か月児健診及び3歳児健診を実施する。<br>幼児健診受診促進事業として、一定期間の未受診児に対し、子育て支援訪問員や保健師が訪問し受診勧奨をする。訪問して会えない場合、文書による勧奨も実施。<br>◆男女共同参画の視点からの目的<br>受診率向上及び父親の子育て参加の機会促進ため、各健診のうち一定数の日曜健診を実施する。<br>◆活動指標(目標)<br>子どもの発育や発達に関する保護者の育児不安の軽減を図るとともに、幼児の疾患や精神運動発達面での問題を早期に発見し、治療や支援につなげる。<br>1歳6か月児健診受診率　98%<br>3歳児健診受診率　95%<br>(参考)関連する数値目標<br>低出生体重児出生率:9.5 | 決算額(千円) R3 18,338 / R4 23,289 / R5 21,882 / R6 21,639 / R7 22,464<br>担当課 母子保健課<br>写真等 | ◆検証《達成状況、その要因》<br>●1歳6か月児健診<br>対象者数　1,735人<br>受診者数　1,617人<br>受診率　93.2%<br>受診勧奨訪問実績　77件<br>●3歳児健診<br>対象者数　1,963人<br>受診者数　1,840人<br>受診率　93.7%<br>受診勧奨訪問実績　123件<br>◆推進委員会の点検項目<br>必要性:・事業がプランの数値目標に結びつくか。<br>効率性:・事業実施方法は適切か。<br>・事業コスト、費用対効果は適当か。<br>有効性:・事業の活動指標の達成状況は順調か。<br>・事業成果の向上のために具体的取組は妥当か。<br>工夫・配慮:・男女共同参画の視点からの配慮があるか。 | ◆推進委員会から点検コメント<br>【特に良かった点等】<br>【課題等】 |

| 基本目標 | 取組の方向性 | Plan（計画） | | Do（実施） | Check（点検） | | | Action（見直し） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ア | No. | 事業名 | ◆具体的取組《工夫や配慮した点等》 | 自課評価 | R3 | A | ◆対応《改善、今後どのようにするか》 |
| 生涯にわたる健康生活を充実させましょう | あらゆるライフステージにおける心と体の健康支援 | 58 | 相談事業(NO. 23再掲) | ・一般相談　2，004件<br>・法律相談　月2回（1回4名まで）　95件<br>・こころの相談　月2回（1回2名まで）47件<br>・男性相談　月4回（1回2名まで）　71件<br>・性的少数者対象：にじいろコール～LGBTsに関する相談～　月1回　4件<br><br>情報紙に相談室の案内を毎号掲載するとともに、テレビ、ラジオ、SNS等により積極的な広報を行った。また、にじいろコールに周知については、県立高校、高知市立中学校等の生徒にポケットカードを配付するとともに、高知市立小学校の保健室等へポケットカードの配架を依頼した。 | | R4 | B | ・総合的な相談窓口として、情報紙、ホームページ、SNS等で広報し、相談につながるよう引き続き取組む。 |
| | | ◆事業（概要） | | | | R5 | A | |
| | | ・女性対象：一般相談（開館日）<br>・専門相談（法律相談／月2回、こころの相談／月2回）<br>　令和3年度からこころの相談を月2回に拡充<br>・男性対象：令和5年度から男性のための悩み相談　月4回に拡充<br>・LGBTsに関する電話相談（にじいろコール）／月1回　令和3年度試行、令和4年度開始、令和5年度からフリーダイヤルに変更 | | | | R6 | A | |
| | | ◆男女共同参画の視点からの目的 | | | | R7 | A | |
| | | 　社会情勢の変化に注視しながら、男女共同参画やジェンダー平等に関する県民の理解を深めるため、さまざまな形で知る機会を提供する。 | | | 評価基準<br><br>A：目標達成<br>B：概ね達成<br>C：少し下回った<br>D：大きく下回った | | | |
| | | ◆活動指標（目標） | | | ◆検証《達成状況、その要因》 | | | |
| | | ・一般相談　2,000件以上 | | | 一般相談件数は前年度比2.7%減となったものの、前々年度以前と比較すると2，000件前後で推移しており、例年並の水準だった。こころの相談及びにじいろコールの相談件数は前年度より減少したが、法律相談及び男性相談は前年度より増加した。 | | | |
| | | （参考）関連する数値目標 | | | | | | |
| | | 健康寿命（65歳の平均自立期間）：男性18.90年　女性22.89年 | | | | | | |

| 決算額（千円） | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1，796 | 1，756 | 1，741 | 1，670 | 1，714 |

| 担当課 | ソーレ |
|---|---|

写真等（チラシ）